

町内遺跡発掘調査等事業報告書Ⅸ 調査編

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

史跡上之国花沢館跡分布調査

2006・3

上ノ国町教育委員会

序

昨年に引き続き降雪量が多く寒い冬でしたが、フキノトウも姿を見せ始め、ようやく春の息吹を感じられました。

教育委員会では、勝山館跡直下の町場の形成や町内の遺跡の所在を確認し、保存保護を図るために、平成9年度から詳細遺跡分布調査事業を行っています。これに前後して、勝山館跡直下の字上ノ国地区では6件の個人住宅建替えなどに伴う発掘調査が併行して実施され、現市街地のはば全域で縄文から江戸時代に至る遺構や遺物が発見されました。また、平成11年度に実施した重要文化財旧笠浪家住宅保存修理に伴う調査では、上ノ国のアイヌ文化を示す重要な知見も得られました。これらの経験から、平成13年にこの地区を上ノ国市街地遺跡として登録し、遺跡の保護に努めました。

本書は、平成17年度に実施した上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）の住宅建替えに伴う発掘調査と、上之国館跡保存管理計画書策定のための史跡上之国花沢館跡の内容確認調査の報告書です。上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）の調査で、続縄文時代後期の生活面が確認されたのは本遺跡地内での新知見となりました。花沢館跡の調査では、昨年度の結果と併せ、この館は「コシャマインの戦い」前後から蠣崎季繁が亡くなる頃までの非常に短期間存続していたことが想定されました。

本町では、中高一貫教育を進めておりますが、その中で郷土研究を行うことを通して「ふるさとを豊かに語る力」の育成を目指しています。また、小学校でのふるさとを教材とした総合学習も積極的に進められており、自分たちの身近な足元から掘り出される様々な情報は上ノ国の先人の歩みを知る生きた教材として子どもたちに新鮮な驚きを与えてています。

最後に、調査を行うにあたり、土地所有者の山本吉春氏、並びに上ノ国八幡宮官司松崎辰彦氏をはじめ、地域の皆さまから多くのご支援・ご協力を賜りました。衷心より厚く感謝申し上げます。

また、事業の遂行に際し文化庁記念物課をはじめ、関係各機関の諸先生方からご指導ご鞭撻を賜りましたことに深く御礼申し上げます。

なお、来年度以降引き続きこの事業を継続していく予定でございますので、文化庁記念物課をはじめ、関係各機関、諸先生方にはより一層のご指導を賜りますようお願い致しまして、刊行のご挨拶といたします。

平成18年3月

北海道松山郡上ノ国町教育委員会

教育長 金子 廣

例 言

1. 本書は平成17年度に実施した町内遺跡発掘調査等事業の概要をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

　　教育長 金子 廣

指導 史跡上之国勝山跡調査研究専門員

仲野浩 東北芸術工科大学名誉教授

榎森進 東北学院大学教授

上ノ国町史跡整備検討委員会

仲野浩 東北芸術工科大学名誉教授

榎森進 東北学院大学教授

鈴木亘 鶴見大学講師

田中哲雄 東北芸術工科大学教授

宮本長二郎 東北芸術工科大学教授

渡辺定夫 東京大学名誉教授

主管 上ノ国町教育委員会事務局

文化財グループ

参事・主任学芸員 松崎水穂

主幹 小林 真

主査・学芸員 斎藤邦典

主事 塚田俊一郎

発掘調査員 塚田直哉

文化財アドバイザー 久末久義

調査担当者 斎藤邦典

発掘調査員 塚田直哉

調査補助員 笠谷奈智子

竹内江美子

作業員 池田泰子 井越祥子 大谷弓子

岡野景子 奥寺京子 勝田百香

川口泰子 鈴木千春 鈴木真澄

目黒加奈子 森美奈子

3. 本書の編集は、斎藤・塚田が協議の上、塚田が行なった。

遺構・遺物の実測図と図版等の作成は、調査補助員・作業員が行なった。

4. 本書に掲載した写真の撮影は、35mmカラーリバーサル及びカラーネガの2種類のフィルムを使用した。

5. 掘出の縮尺は、各図ごとにスケールを付した。

6. 遺物の点数については、発掘現場での取り上げ点数を表す。

7. 土層の色調観察には、「新版標準土色帳」(農林水産技術会議事務局1993)を使用した。

8. 本書に掲載している遺物には観察表を付し、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。

また、表中の()については、欠損などして残存している現存値を示す。

9. 出土遺物、調査写真・図面等は、上ノ国町教育委員会で管理・保管している。

10. 調査ならびに本書の作成にあたり、次の関係機関と各位からご指導、ご助言を頂戴した。

記して感謝申し上げたい(敬称略)。

文化庁記念物課 坂井秀弥 岡田康博 玉田芳

英 北海道教育庁文化課 田才雅彦 長沼孝

中田由香 北海道埋蔵文化財センター 越田賢

一郎 伊達市噴火湾文化研究所 青野友哉

函館市教育委員会 野村祐一 五所川原市教育委員会 柳原滋高 札幌市 大沼忠春

引用参考文献

朝倉氏遺跡資料館 1983「県道鰐江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書」

北海道庁 1916「北海道史」

上田秀夫 1982「14~16世紀の青磁碗の分類について」貿易陶磁研究第2号

大橋康二 2000「I 九州陶磁概論」「九州陶磁の縦年」九州近世陶磁学会

小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」貿易陶磁研究第2号

永井久美男 1998「近世の出土銭II一分類図版編」兵庫埋蔵銭調査会

永井久美男 2002「新版 中世出土銭の分類図版」兵庫埋蔵銭調査会

藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯年の再検討」

『研究紀要 第10輯』

(財)瀬戸市埋蔵文化財センター

松崎岩穂 1956「上ノ国村史」上ノ国町教育委員会

森田 勉 1982「14~16世紀の白磁の型式分類と縦年」貿易陶磁研究第2号

吉岡康暢 1994「中世須恵器の研究」吉川弘文館

本文目次

序／例言／引用参考文献	2
本文目次／挿図目次／表目次／写真図版	
上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）	2
I 調査の概要	2
1. 調査にいたる経緯	2
2. 調査方法	2
3. 調査経過	2
4. 基本層序	2
II 遺構確認調査	3
1. 検出遺構	3
2. 出土遺物	5
史跡上之国花沢館跡	18
I 調査の概要	18
1. 調査にいたる経緯	18
2. 調査方法	18
3. 調査経過	18
4. 基本層序	18
II 遺構確認調査	21
1. 検出遺構	21
2. 出土遺物	32
小 括	33
1. 上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）	33
2. 史跡上之国花沢館跡	33
まとめ	34

報告書抄録

挿図目次

第1図 遺跡位置図	1
第2図 山本吉春氏宅 調査区位置図	1
第3図 遺構配置図他	4
第4図 出土遺物分布図1	9
第5図 出土遺物分布図2	10
第6図 柱列想定図	11
第7図 出土遺物1（土器）	12
第8図 出土遺物2（土器）	13
第9図 出土遺物3（土器）	14
第10図 出土遺物4（陶磁器・かわらけ）	15
第11図 出土遺物5（陶磁器・須恵器）	16
第12図 出土遺物6（陶磁器・銅製品）	17
第13図 遺構配置図	19
第14図 第1調査区平面図他	23
第15図 第2調査区平面図他	24
第16図 第3調査区平面図他	25
第17図 第4調査区平面図他	27
第18図 出土遺物7（陶磁器）	28
第19図 出土遺物8（陶磁器）	29
第20図 出土遺物9（陶磁器・銅製品）	30
第21図 出土遺物10（鉄製品）	31

表目次

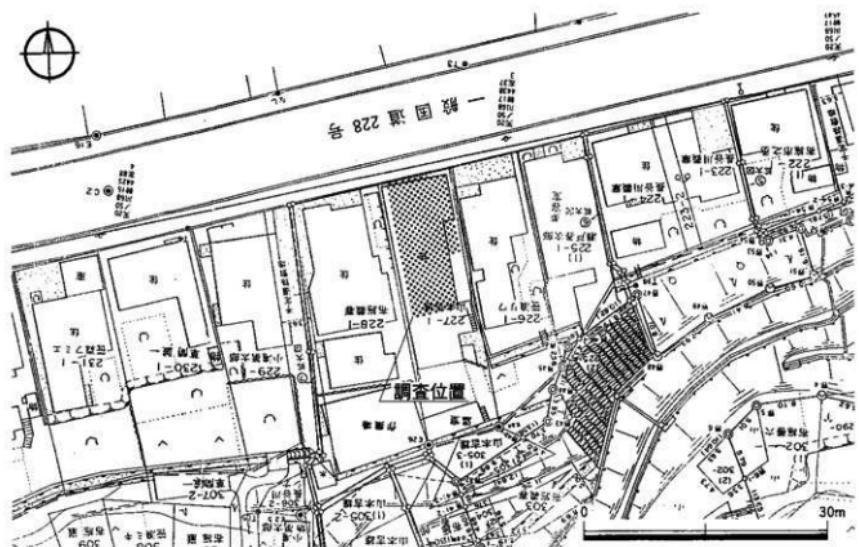
表1	東西北壁セクション (SPA～SPA')	5
表2	南北西壁セクション (SPB～SPB')	5
表3	山本宅出土遺物集計表 (土器)	6
表4	山本宅出土遺物集計表 (その他)	6
表5	山本宅出土遺物集計表(陶磁器・かわらけ)…	7
表6	山本宅 出土遺物観察表.....	7
表7	第1調査区 南北西壁セクション (SPA～SPA')	23
表8	第2調査区 南北東壁セクション (SPA～SPA')	24
表9	第2調査区 南北西壁セクション (SPB～SPB')	24
表10	第3調査区 南北東壁セクション (SPA～SPA')	25
表11	第3調査区 南北西壁セクション (SPB～SPB')	25
表12	第4調査区 南北北壁セクション (SPA～SPA')	31
表13	第4調査区 土壌1 (SPB～SPB')	31
表14	第4調査区 土壌2 (SPC～SPC')	31
表15	花沢館跡 出土遺物観察表.....	32
表16	花沢館跡 出土遺物集計表.....	33

写真図版

P L. 1	上ノ国市街地遺跡 遺構検出状況・出土遺物
P L. 2	上之国花沢館跡 遺構検出状況・出土遺物
P L. 3	上ノ国市街地遺跡 遺構検出状況
P L. 4	上ノ国市街地遺跡 (1～9)・ 上之国花沢館跡 (10～15) 遺構検出状況
P L. 5	上之国花沢館跡 遺構検出状況
P L. 6	上之国花沢館跡 遺構検出状況
P L. 7	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (縄文・続縄文土器)
P L. 8	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (擦文土器・陶磁器)
P L. 9	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (陶磁器・かわらけ)
P L. 10	上ノ国市街地遺跡 出土遺物 (陶磁器・鉄製品・銅製品・骨角器・ 須恵器)
P L. 11	上之国花沢館跡 出土遺物 (陶磁器・鉄製品・銅錢・自然遺物・ 石製品)



第1図 遺跡位置図



第2図 山本吉春氏宅 調査区位置図

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

I 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

上ノ国市街地遺跡は、天ノ川河口左岸の標高約5mの海浜に立地し、南西には史跡上之国勝山館跡を擁する丘陵地帯が広がる。

過年度には、住宅の建替え等による発掘調査が行なわれ、縄文～明治時代に至る遺構・遺物等が確認されている。

特に平成11年に行われた、旧笠浪家住宅横の宮ノ沢右岸地点の発掘調査では、中世末～近世初頭の層からイクバスイや陶磁器などが出土し、勝山館跡だけでなく上ノ国市街地においても、アイヌと和人のあり方について注目される資料が発見されている。

今年度は、旧笠浪家住宅から国道沿いを東側約100mに位置する山本吉春氏宅の住宅建替えに伴う発掘調査を行なった。

2. 調査方法

グリッドは、4m方眼を調査区全体に設定し、東西方向をアルファベット、南北方向をアラビア数字で表記し、それらを組み合わせてB1、C2…と設定した。

遺物の取り上げは、I層（表土層）出土のものは、グリッドを4分割（2m×2mの小グリッドを設定）して取り上げた。II層以下のものについては、地点と標高値を記録し、層位ごとに取り上げた。

3. 調査経過

6月15日(水)

調査区の設定とI～II層の掘削を行なう。

6月16日(木)

1640年降下のKo-d（駒ヶ岳d）火山灰上面で遺構検出を行う。柱穴等が確認されたが、近現代の搅乱によりその詳細は捉えられなかつた。

6月17日(金)

III層において15世紀中頃～17世紀初頭の陶磁器が出土する。

6月28日(火)

IIIb層上面において遺構検出を行なう。柱穴

等が多数確認された。

7月1日(金)

Ko-d火山灰下で溝1を検出した。

7月11日(月)

930年代降下のB-Tm（白頭山-苦小牧）火山灰上のIVa層から内耳土鍋が出土する。

7月13日(水)

B-Tm火山灰下のVa層から続縄文土器（後北C2-D式）が出土する。

7月15日(金)

V層面（無遺物層）まで掘り下げ、全景写真を撮影して発掘調査を終了した。

4. 基本層序

本調査区で確認された基本的な層序は以下のとおりである。

I層：近現代に相当する堆積層である。

II層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年降灰のKo-d（駒ヶ岳d）火山灰の層を含む。

III層：中世～近世初頭に相当する堆積層で、2層に細分される。

IIIa層：黒褐色シルト層である。

IIIb層：明褐色他の粘土層である。

IV層：縄文時代に相当する堆積層で、2層に細分される。

IVa層：黒色の腐植土層で、B-Tm上層に堆積する。

IVb層：B-Tm火山灰層である。

V層：続縄文時代に相当する堆積層で、2層に細分される。

Va層：暗褐色の砂質土層である。

Vb層：灰白色の粘土層である。

VI層：縄文時代後期～晩期に相当する堆積層で、2層に細分される。

VIa層：褐灰色の砂質土層で礫を多く含む。

VIb層：褐灰色の砂質土層である。

VII層：褐灰色の砂層で、この層から遺物は出土しなかつた。

II 遺構確認調査

1. 検出遺構

本調査では、Ⅱ層及びⅢ層面において溝・柱穴等の遺構を検出したが、Ⅳ～VI層面では遺構を検出できなかった。

また、Ⅲ層までは住宅の基礎等による現代の搅乱を受けており、遺構の掘り込み面が確認できないものも多数存在した。

なお、土壤1～3・井戸は近現代の遺構のため、ここでの記述は割愛した。

溝1（第3図、PL 3-11・12）

【位置】B 1・C 1グリッドに位置する。

【形態・規模】東から西方向へ直線的に延び、長さは残存値で400cm、幅約80cm、深さ約40cmを測る。溝1南側に約10cmの段が存在し、溝の造り替えを想定した。平面プラン・土層堆積からそれを確認できなかった。

【堆積土】黒褐色シルトの自然堆積を呈し、5層に分層される（SPA～SPA'）。K o-d火山灰より下層に位置する。

【新旧関係】切り合い関係からP 29・30・41・78より古い。

【出土遺物】青磁碗1点、白磁皿（D群）1点、瀬戸・美濃灰釉皿（大窯第1～2段階）1点、瀬戸・美濃撞鉢（大窯第4段階）1点、染付碗？1点、漆椀1点が出土している。

灰・炭化物範囲（第3図、PL 3-13）

【位置】B 4グリッドに位置する。

【形態・規模】長軸約100cm、短軸約70cm、厚さ3～5cmの不整楕円形を呈する。

【堆積土】Ⅲ b層直上に堆積し、灰や炭化物を含む。灰・炭化物除去後の地表面に被然を受けた形跡がなく、別の場所から廃棄されたものと想定される。

【新旧関係】切り合い関係からP 52より古い。

【出土遺物】青磁碗（龍泉窯系碗B 2類）1点、白磁丸皿平高台（D群）6点、古瀬戸卸口付皿（後IV古段階）1点が出土している。

柱列（第6図）

柱穴の切り合い関係や配置から柱列1～5を想定した。

柱列1

【柱列】P 54・P 14・P 19とそれに直交するP 49・P 22・P 40とP 26・P 21・P 29を想定した。

【柱間寸法】P 54～P 19は、柱間5.4尺、6.6尺を測る。P 54～P 40・P 19～P 29は、柱間6.4尺、6.4尺、5.8尺を測る。

【新旧関係】切り合い関係からP 21・P 49が柱列2のP 43・P 8より古い。

柱列2

【柱列】P 1・P 59・P 17とそれに直交するP 2・P 8とP 11・P 18・P 46・P 43を想定した。

【柱間寸法】P 1～P 17は、柱間6.3尺、6.3尺を測る。P 1～P 8は、柱間6.3尺、6.3尺を測る。P 11～P 43は、柱間6.3尺、6.3尺、6.3尺を測る。

【新旧関係】切り合い関係からP 43・P 8が柱列1のP 21・P 49より新しい。

柱列3

【柱列】P 6・P 13とそれに直交するP 57・P 28を想定した。

【新旧関係】P 57は、K o-d火山灰層を壊して構築されるため、K o-d火山灰降下後の柱穴である。

柱列4

【柱列】P 31・P 27・P 44を想定した。

【柱間寸法】P 31～P 44は、柱間7.1尺、7.1尺を測る。

【新旧関係】切り合い関係からP 27が柱列5のP 7より古い。

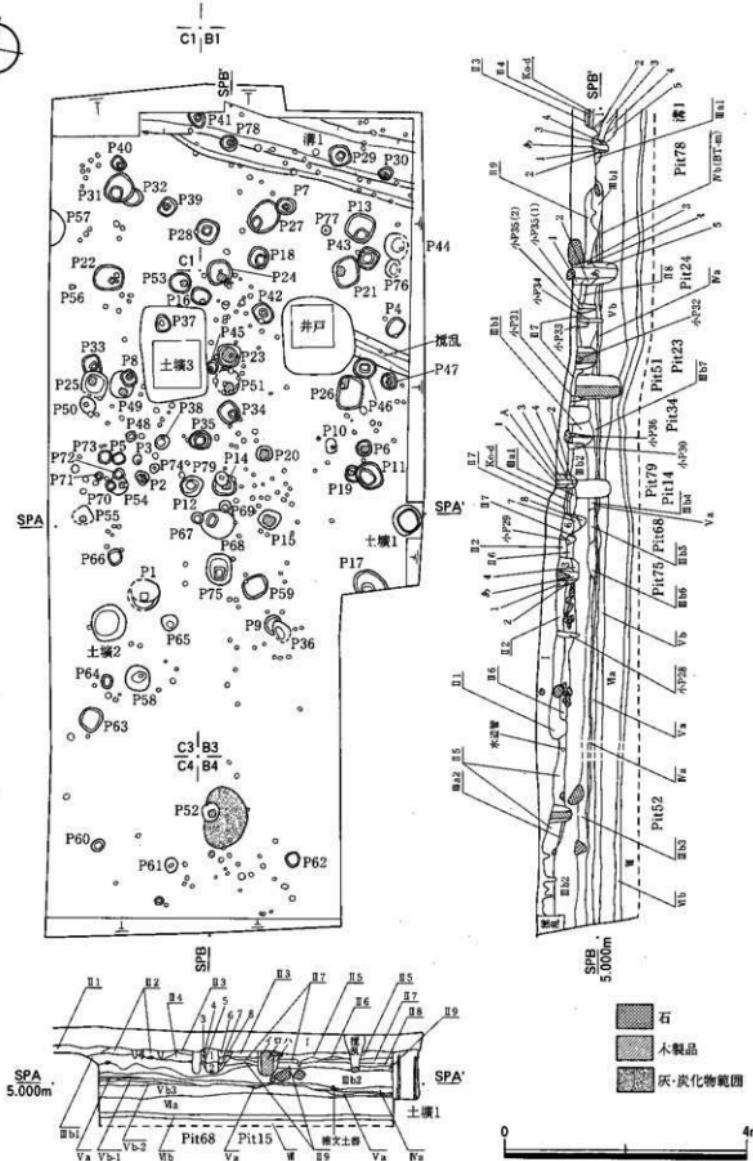
【出土遺物】なし

柱列5

【柱列】P 61・P 65・P 38・P 37・P 39に直交するP 62とP 7を想定した。

【柱間寸法】P 61～P 39は、柱間13.2尺、9.9尺、6.6尺、6.6尺、P 61～P 62は、柱間6.6尺を測る。P 39～P 7は、柱間6.6尺を測る。

【新旧関係】切り合い関係からP 7が柱列4のP 27より新しい。また、P 37が土壤3より新しい。



第3図 遺構配置図他

表1 東西北髪セクション [SPA~SPA']

表2 南北西壁セクション (SPB~SPF)

I	10YR2/3	暗褐色	エンドウ・ソラ・ローム プロック少量	シルト ややハード	小#32	10YR2/3 黒褐色 明暗色少量	シルト ややハード
E1	10YR2/3	暗褐色	5m~20m 大地角風化带	シルト ややハード	小#33	10YR2/3 黑褐色 明暗色少量	シルト ややハード
E2	10YR2/3	暗褐色	5m~10m 地角風化带 ~3cm 大地角中層	シルト ややハード	小#34	10YR2/2 黑褐色 明暗色少量	ロームプロック少量 シルト ややソフト 成土量少
E3	5YR4/8	赤褐色	赤褐色	シルト ややハード	小#35	10YR2/2 黑褐色 明暗色少量	シルト ややソフト 成土量少
E4	10YR2/2	赤褐色	赤褐色	シルト ソフト	2 10YR2/2 黑褐色 明暗色少量	シルト ややハード	小#36
E5	10YR2/2	赤褐色	赤褐色 土粒結構	シルト ややハード	1 10YR2/2 黑褐色 明暗色少量	シルト ややソフト 成土量少	注1
E6	10YR2/2	黒褐色	黒褐色 土粒結構	シルト ややハード	2 10YR2/2 黑褐色 明暗色少量	シルト ソフト	
E7	10YR2/2	黒褐色	10~15cm 大地角風化带 ~10cm 大地角中層 Ko-d ブロック (5cm)X1	シルト ややハード	3 10YR2/2 黑褐色 明暗色少量	シルト ややソフト 成土量少	
					4 10YR2/1/7 黑色	シルト ややソフト 成土量少	
					5 10YR2/1/7 黑色	シルト ソフト	

2. 出土遺物 (7~12図、PL 1・7~10)

本調査では、破片数で3700点の遺物が出土している。実測・写真等の報告書掲載遺物に関しては、観察表を付した(表6)。

a. 土器 (7~9図、PL 7~8-5)

土器は、破片数で縄文土器612点、続縄文土器178点、擦文土器98点、不明1点の計889点出土している。

上器の分類は、原歌遺跡 S 地点の分類を参考にして行なった（上ノ国町教育委員会1998）。

N 群：縄文時代後期に相当する土器群。

主にVI b層から出土し、本調査では主体となる土器群でa～dの4類に細分される。

V群a類：縄文時代後期初頭の土器群

煉瓦台、天祐寺式などの余市式系の土器群を主体とする。

N群 b 類：縄文時代後期前葉の土器群。

鳥崎式、大津式、十腰内I式、入江式系を主体とする。本調査では、入江式に相当する土器が出土している。

IV群c類：縄文時代後期中葉～後葉の土器群。

手稻式、ホッケマ式を主体とする。また、これらに先行する船泊上層式、ウサクマイC式なども含む。本調査では、ウサクマイC式、手稻式、ホッケマ式に相当する十器が出土している。

M群d類：縄文時代後期後葉～末葉の土器群。

堂林式、三ツ谷式、御殿山式を主体とする。本調査では、堂林式に相当する土器が出土している。

V 群：縄文時代晩期の土器群。

主にVIa層から出土し、本調査では、大洞B～A式相当のものが出土している。また、外面胴部に条痕を施す土器なども見られる。

V 群：続縄文時代の土器群。

本調査では、主にV層から出土しているが、恵山式はVb層、後北式はVa層から出土している。

V群a類：恵山式に相当する土器群。

本調査では、宇鉄Ⅱ式～田舎館I群に併行するものと思われる。器種は台付鉢や深鉢が見られる。

V群b類：後北式に相当する土器群。

本調査では、後北C2・D式の深鉢が出土している。

VI 群：擦文時代の土器群。

本調査では、B-Tm火山灰上層のIVa層から出土し、器種は壺・内耳土鍋が見られる。

b. 陶磁器（10～12図-4、PL 8-6～10-12）

陶磁器は、破片数で2650点出土している。本項では紙幅の関係から唐津を除く肥前系陶磁器については、報告を行わなかった。

青磁（10図-1～5・21・22、PL 8-6～12・32・33）

碗・皿・盤が出土している。碗は龍泉窯系碗B2類、D2類、B4類、E類が出土している。碗D2類の口縁部は、端反りのタイプのみで、玉縁状のものは見られない。皿は口縁部が玉縁状の端反皿や割花文を施さない無文の稜花皿が出土している。盤は、内面胴部にソギが見られる。

白磁（10図-25、PL 9-1）

白磁皿D群の丸皿で占められる。高台は平高台のものが見られ、釉調は陶器質を呈する。

染付（10図-6・7・9・24、PL 8-13・14・19・35・36）

碗は蓮子碗C群、皿は多い順からE群、C群、B1群が出土している。碗・皿ともに漳州窯系と思われる粗製の一組が見られる。

瀬戸・美濃（10図-10～15・27・28・32～34、11-11、12-2、PL 8-20～25、9-3・4・9-11、10-2・10）

鉄軸・銅軸・灰軸・鉛軸の釉調の製品が出土している。

表3 山本宅出土遺物集計表（土器）

種類	分類	破片数
縄文土器		
V群a類	1	
V群b類	5	
D群	436	
V群d類	6	
V群	55	
V群	109	
小計	612	(68.9%)
続縄文土器		
V群a類	97	
V群b類	66	
V群	13	
小計	176	(20.0%)
不明	98	(11.0%)
鉄	1	(0.1%)
合計	989	(100%)

表4 山本宅出土遺物集計表（その他）

種類	分類	破片数	種類	分類	破片数
金製品	銅	2	石器	スレーバー	2
	銅	29		不明	16
	銅	1		小	18
	刀子	6		小	1
	鏡	2	土製品	陶器	1
	鏡	1		土	1
	鏡	1		自然遺物	1
	鏡	1		不明	8
	鏡	1		石	2
	小	2		小	11
	小	8		小	1
木製品	木	7		中型	2
	木	2		大型	2
	木	1		不明	1
	木	1		漆器	1
	木	1		陶器	1
	漆	8		陶器	7
	漆	4		漆	161
	漆	5		漆	17
	漆	5		計	28
小計			小計		

鉄軸は、碗のみの出土で大窓第2後～4段階相当や連房期と推されるものが見られる。銅軸は、大窓第4段階相当の擂鉢が見られる。

灰軸は、連房期に相当する碗や古瀬戸御目付大皿、大窓第1～2段階相当の端反皿や大窓第4段階相当の内壳皿などが出土している。鉛軸は、口縁部が屈曲する皿で外面胴部以下露胎を呈する。珠洲（11図-15、PL 10-6）

擂鉢で構成され、胴部～底部破片の出土であるが、V～VI期に相当するものと推測される。

越前（11図-16、12-1、PL 10-7～9）

擂鉢で構成され、V群の製品が多く出土しIV群に相当するものも見られる。

志野（10図-26・39・30、PL 9-2・5・7）

皿で構成され、丸皿・菊皿・鉄絵皿などが出土している。

唐津（10図-17・23、11-1～6・10、12-3・4・P L 8-27・28・34、9-12～17、10-1・4・11・12）

碗・皿・盤などが出土している。碗は、目積みを行わない製品で占められる。皿は、多い順に砂目積みを行うもの、胎土目積みを行うもの、目積みを行わないものが出土する。

c. 鉄製品（PL 10-21）

釘・鍼・刀子・鍋などが出土している。鍋は、吊耳の製品で構成される。

d. 銅製品（12図-5～12、PL 10-13～18・20・22～27）

煙管・笄・錢などが出土している。錢は、明道元寶・寛永通寶（1・2期）が出土している。

e. 石製品

茶臼・砥石が出土している。砥石は、仕上げ砥・中砥で構成される。

f. その他

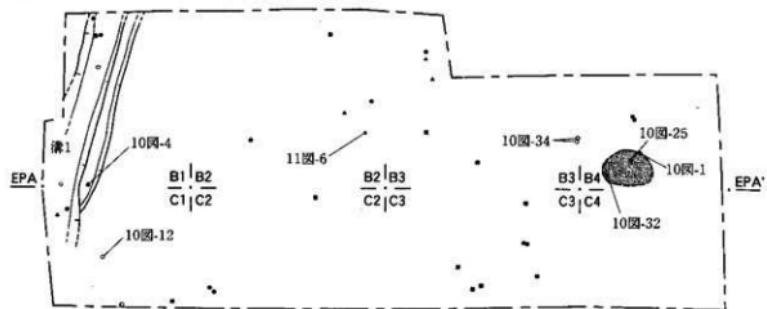
石器・須恵器・かわらけ・骨角器・漆器などが出土している。

表5 山本宅出土遺物集計表（陶磁器・かわらけ）

表 6 山本室 出土漆物觀察表

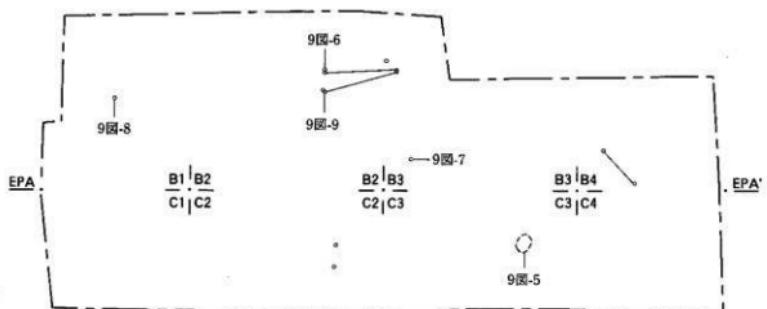
箇所名	PL-Nr.	グリット	遺物	部位	種類	基盤	備 考	理番号
7区-1	PL7-1	B1-B2	井戸	Wb	绳文土器	漆添	W群c期 口径28.6×底径21.1×高さ6.8cm 外面一口縁部・脚部LR斜行縄文構同軸 内面一ミガキ	理番No314
7区-2	PL7-2	C2	Wb	绳文土器	漆添	W群c期 底径25.0cm 棱状口縁 面外一口縁部LR斜行縄文構同軸・孔穴、脚部LR斜行縄文構同軸 内面一ミガキ	理番No269	
7区-3	PL7-3	C2	Mb	绳文土器	漆添	W群c期 口径17.8cm 外面一口縁部・脚部LR斜行縄文構同軸 内面一ミガキ	理番No295	
7区-4	PL7-4	C2	Mb	绳文土器	漆添	W群c期 外面二脚部比較・脚部LR斜行縄文構同軸 内面一ミガキ	理番No321	
7区-5	PL7-5	C4	Mb	绳文土器	漆添	W群c期 1口径50.8cm 外面一口縁部LR斜行縄文構同軸・孔穴、脚部LR斜行縄文構同軸 内面一ミガキ	理番No271	
7区-6	PL7-6	C2	Mb	绳文土器	漆添	W群c期 口径47.0cm 外面一面縁部沈、脚部LR斜行縄文 内面一ミガキ	理番No315	
8区-1	PL7-7	井戸	Wb	绳文土器	漆添	W群b期 外面一口縁部「J」字状、陶文の文字様を残す。内面一部脚ミガキ	E22-P7-P7	
8区-2	PL7-8	井戸	Wb	绳文土器	漆添	W群b期 外面縁部「J」字状と並ぶ施様。内面一ミガキ	佛士-P23	
8区-3	PL7-9	C3	Mb	绳文土器	漆添	W群b期 外面一口縁部漆付・枕縫	C3V1-P7	
8区-4	PL7-11	C2	Mb	绳文土器	漆添	W群c期 山形口縁、外面一口縁部沈、脚部削部・LR斜行縄文構同軸 内面一ミガキ	理番No282	
8区-5	PL7-12	C1	Mb	绳文土器	漆添	W群c期 山形口縁 外面一漆添部・脚部LR斜行縄文 内面一ミガキ	理番No267	
8区-6	PL7-13	C1	Mb	绳文土器	漆添	W群c期 山形口縁部削除・底部灰化部有。内面一口縁部沈	理番No251	
8区-7	PL7-10	B3	Bb	绳文土器	漆添	W群 c期 外面二脚部平行比較・脚部削痕・脚部平行沈痕・T字型・LR斜行縄文構同軸	E3-V1-P1	
8区-8	PL7-14	I	陶文	漆添	W群 c期 足?		尚士-P1	
8区-9	PL1-8	B4	Wb	绳文土器	漆添	W群 c期 外面一施縫・沈痕・枕縫	理番No288	
8区-10	PL7-15	C2	Mb	绳文土器	漆添	W群 c期 口径22.0cm 外面一施縫・LR斜行縄文構同軸 内面一ミガキ	理番No283	
8区-11	PL7-16	B4	Mb	绳文土器	鉢	W群 c期 口径17.5cm 1脚部折損欠	理番No250	
8区-12	PL7-17	D4	Mb	绳文土器	漆添	W群 c期 外面一施縫・脚部削痕	理番No254	
8区-13	PL7-19	C2	Mb	绳文土器	漆添	W群 c期 口径20.8cm 外面一口縁部削痕・沈痕、脚部LR斜行縄文構同軸土工	理番No285	
8区-14	PL7-18	C3	Mb	绳文土器	漆添	W群 c期 口径12.4cm 口縁削痕	理番No324	
9区-1	PL7-20	E2	Vb	绳文土器	台形	W群 a期 沈痕・外底一面・脚部削痕・沈痕・底走丸文・字跡? 二面削下唇に併行か	理番No303	
9区-2	PL7-22	D2	Vb	绳文土器	台形	W群 a期 沈痕・外底走丸文・字跡? 二面削下唇に併行か	理番No248	
9区-3	PL7-21	B1-B4	Vb	绳文土器	脚部	W群 a期 独山山形 外面一施縫・底走丸文	理番No253	
9区-4	PL7-23	B3	Va	绳文土器	漆添	W群 b期 後凹式D型	理番No266	
9区-5	PL8-1	C3	Va	绳文土器	漆添	獨山群(18.5)×底径6.2cm 外面一口縁部ヨコナカ・脚部ヘラケズリ・底部ヘラケズリ 内面一網状剥離付着	理番No247	
9区-6	PL8-2	R2-B3	Va	绳文土器	堀	獨山群 口径10.8×底径11.1×高さ6.2cm 外面一口縁部ヨコナカ・沈痕・崩れヘラケズリ	理番No246	
9区-7	PL8-3	B3	Va	绳文土器	堀	獨山群 口径14.0cm 外面一口縁部ヨコナカ3段・脚部ヘラケズリ 内面一口縁部ヨコナカ	E3N-P1	
9区-8	PL8-4	B1	Va	绳文土器	堀	獨山群 口径12.4cm 外面一面・LR斜行縄文・脚部ヘラケズリ 内面一見跡	E1 N-P1	
9区-9	PL8-5	R2-B3	Va	绳文土器	堀	獨山群 独山群(18.5)×底径6.2cm 外面一口縁部ヨコナカ・脚部ヘラケズリ 内面一網状剥離付着	理番No247	
10区-1	PL8-6	B4	IIb	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の13.0 外面一肩部 另外一口縁部鏡2枚、脚部擦痕丸介	E4 II-E8	
10区-2	PL8-7	B2-C3	IIb	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の11.8 外面一口縁部鏡2枚、脚部擦痕丸介	理番No209	
10区-3	PL8-8	C3	I	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の10.8 外面一口縁部鏡2枚、脚部擦痕丸介	C3 I-E8	
10区-4	PL8-9	R1-C2	II	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の10.4 外面一面・脚部「ヨコナダ?」・裏背文 内面一網状丸文	理番No65	
10区-5	PL8-10	B2	II	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の10.6 cm 外面一面・脚部擦痕丸文、高台裏面露・内面一見跡辨認	H2 E-B61	
PL8-11	B4	II	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の10.6 cm 外面一面・脚部擦痕丸文	E4 E-B14		
PL8-12	B2	井戸	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の10.4 cm 外面一面・脚部擦痕・高台裏面露・内面一見跡辨認・印花?	E2井戸-E2		
10区-6	PL8-13	B1	I	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の10.4 cm 外面一面・見跡花文	B1 I-E15	
10区-7	PL8-14	B1	I	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の10.4 cm 外面一面・見跡花文	B1 I-E23	
10区-8	PL8-15	C1	I	青銅	鏡	鏡群系识别記号: 鏡の10.4 cm 外面一面・見跡花文	C1 I-E12	
PL8-16	C2	I	青銅	鏡	II-2期 外面一口縁部鏡2枚、脚部花卓草・壓縫壓縫、内面一口縁部鏡	C2 E-E13		
PL8-17	C1	I	青銅	鏡	II-2期 外面一口縁部鏡2枚、脚部花卓草	C1 E-B10		
PL8-18	B2-C2	I	青銅	鏡	II-2期 外面一口縁部鏡2枚、脚部花卓草、壓縫壓縫、内面一口縁部	理番No78		
10区-9	PL8-19	B1	I	青銅	鏡	外面一網状「堀」形 内面一見跡辨認2枚	E1 B1鏡-I-2B	
10区-10	PL8-20	C2	I	青銅	鏡	外面一網状「堀」形 内面一見跡辨認2枚	理番No216	

固形物	PL-No	グリット	選別	部位	履歴	種	考	固形物	
10固-11	PL8-21	B1	I	鉢植	穀	大日茶碗 大漁4 口徑11.8cm	B1 II-E57		
10固-12	PL8-22	C1	II	鉢植	穀	天目茶碗 大漁4 口徑11.8×器高(3.6)cm 高台周邊薄い輪物	後合No43		
10固-13	PL8-23	B2	II	鉢植	穀	大日茶碗 大漁4 Ⅰ(径11.8×器高(3.6)cm	B2 II-E17		
10固-14	PL8-24	B1	鉢植	穀	油風呂 口徑10.0×器高(2.6)cm 外面-肩部以下露胎	博士-E47			
10固-15	PL8-25	B1	II	鉢植	穀	油風呂 口徑13.3×器高(3.3)cm	B1 II-E2		
10固-16	PL8-26	B2	I	肥前系陶器	骨灰	口徑12.0×底径3.6×高さ3cm 外面-口縁部・脚部圓錐 腹筋は下露胎 内面-露胎	後合No17		
	PL8-27	B2	II	唐津	穀	肥前系陶器 口面-外縁-脚部以下露胎 内面-灰胎			
10固-17	PL8-28	B1	I	唐津	穀	口面-外縁-脚部以下露胎 外面-高台露胎・スヌ付唇 2次被熱	後合No233		
10固-18	PL8-29	B3	II	肥前系陶器	穀	口面-外縁-脚部以下露胎 Ⅰ(径11.0×底径5.1×器高7.3cm)	後合No37		
10固-19	PL8-30	B1-B2	I	肥前系青磁	穀	口徑11.2×底径5.0×器高7.0cm 外面-高台露胎	後合No37		
10固-20	PL8-31	B3-C3	II	肥前系青磁	穀	口徑21.0cm	後合No178		
10固-21	PL8-32	B1	粗糲	青磁	粗糲 2次被熱				
10固-22	PL8-33	B3	I	青磁	粗	粗糲 2次被熱			
10固-23	PL8-34	B1	I	唐津	粗	粗糲 内面-脚部被熱 2次被熱	後合No205		
10固-24	PL8-35	C1	I	染付	粗	粗糲 Ⅱ(径8.7×器高(1.95)cm 外面-脚部花房店・施乳頭3点、内面-見込露胎2点、松?	C1 I-E24		
	PL8-36	B3-C3-C4	I	染付	粗	粗糲 外面-口縁部端縫2条、柄部露蓋・鍍金?・腰部無縫2条、内面-口縁部端縫、脚部被熱2点、内面-脚部被熱 2次被熱	後合No6		
	PL8-37	B3-B4-C3	II	肥前系陶器	粗	粗糲 大瓶 Ⅱ-脚部 Ⅲ(径20.9×器高4.3×底径7.0cm 外面-腰部略通文、内面-見込脚縫2点、見込脚縫2点、松?)	後合No1		
10固-25	PL9-1	B4	Eb	白磁	粗	粗糲 Ⅳ(径19.0×脚部6.0×器高2.6cm)	後合No46		
10固-26	PL9-2	C3	I	志野	粗	粗糲 丸皿 口徑11.0×底径6.0×器高2.1cm	後合No137		
10固-27	PL9-3	B2	II	灰釉	粗	粗糲 丸皿 大輪4 口徑10.6×器高(1.7)cm	B2 II-E177		
10固-28	PL9-4	B2	II	灰釉	粗	粗糲 丸皿 大輪4 口徑10.6×底径5.3×器高(1.9)cm 内面-延辺露胎	後合No61		
10固-29	PL9-5	B1	I	志野	粗	粗糲 丸皿 口徑11.7×底径6.8×器高2.1cm	後合No72		
10固-30	PL9-6	B3	I	志野	粗	粗糲 丸皿 口徑12.9×器高(2.15)cm 内面-口縁部端縫、見込脚縫2条	B3 I-E338		
	PL9-7	B1	II	志野	粗	粗糲 丸皿 口徑12.9×器高(2.15)cm 内面-口縁部端縫、見込脚縫2条	B1 II-E57		
10固-31	PL9-8	B1	II	上部器	粗	粗糲 丸皿 てづくね 口徑12.0×底径6.0×器高1.95cm	B1 II-E1		
10固-32	PL9-9	B2-C4	Eb	灰釉	粗	粗糲 丸皿 大瓶 古窯戸口付古吹抜 Ⅳ(径34.0×底径16.0×器高8.2cm)	後合No23		
10固-33	PL9-10	B3	II	灰釉	粗	粗糲 丸皿 大瓶 古窯戸口付古吹抜	B3 II-E275		
10固-34	PL9-11	B3-B4	Eb	灰釉	粗	粗糲 丸皿 大瓶 古窯戸口付古吹抜	後合No23		
11固-1	PL9-12	B3	II	唐津	粗	粗糲 丸皿 底径4.6 外面-脚部以下露胎	B3 II-E259		
11固-2	PL9-13	C2	II	唐津	粗	粗糲 丸皿 底径11.8×底径6.0×器高3.4cm 外面-脚部以下露胎、高台動土付唇 内面-見込動土口	後合No14		
11固-3	PL9-14	C3	II	唐津	粗	粗糲 丸皿 色調-内面露胎リーピー色	C3 II-E27		
11固-4	PL9-15	B1-B2	D	唐津	粗	粗糲 丸皿 口徑13.4×底径4.8×器高3.7-4.1cm 外面-脚部以下露胎 内面-見込砂口積み	後合No16		
11固-5	PL9-16	B1-C1-C2	D	唐津	粗	粗糲 丸皿 外面-脚部以下露胎 内面-見込砂口積み 2次被熱	後合No14		
11固-5	PL9-17	B2-C2	小 PL9-27	II	唐津	粗	粗糲 丸皿 口徑34.0×底径6.4×器高7.1cm 内面-見込砂口積み	後合No28	
11固-6	PL9-18	B2-B3-C2-C3	Ea	肥前系陶器	粗	粗糲 大瓶 外面-脚部以下露胎 内面-白化粧による斜毛口彫、扶手・銘輪彫	後合No130		
11固-7	PL9-19	R2	D	肥前系陶器	粗	粗糲 大瓶 小型 口徑24.0×底径5.4cm 外面-高台露胎 内面-見込脚縫草花文	後合No66		
11固-8	PL9-20	B2-B3-C3	D	肥前系陶器	粗	粗糲 大瓶 底径6.8cm 外面-浅引彫、高台露胎 内面-脚部彫物、見込蛇の目彫等	後合No71		
11固-9	PL9-21	B3	I	肥前系青磁	粗	粗糲 丸皿 大瓶 4.4×底径4.9×器高1.9cm 斜毛口-手割部分 内面-見込板?、葉状の裏文様	後合No120		
				染付					
11固-10	PL10-1	H2	II	唐津	片口	粗糲 片口 口徑20.4cm	後合No29		
11固-11	PL10-2	R2	II	灰釉	多野	粗糲 丸皿 口徑11.0×底径9.0×器高(5.3)cm 外面-脚部以下露胎 2次被熱	後合No31		
11固-12	PL10-3	C1	H	黄釉	氣	粗糲 丸皿 延辺付 内外面-脚部円形同心凹円の開き口 気調・施土灰白色	後合No117		
11固-13	PL10-4	C1	E	肥前系陶器	粗	粗糲 丸皿 外外面-自然釉 色調-胎-脚部灰白色	C1 II-E43		
11固-14	PL10-5	C3	D	延辺足器	要	粗糲 丸皿-延辺足器 口縁-施土-脚部灰白色 五所川原窯	C3 II-E116		
11固-15	PL10-6	B4	E	延辺足	標付	粗糲 丸皿 内面-見込2口目	E4 II-E8		
11固-16	PL10-7	B3-C3	E	延辺足	標付	粗糲 Ⅳ(器 口徑30.0cm 延辺10条)	後合No119		
11固-8	PL10-8	C3	I	延辺足	標付	粗糲 Ⅳ(器 口徑30.0cm 延辺8条)	C3 I-E1		
12固-1	PL10-9	A2-C3	Ea	延辺足	標付	粗糲 Ⅴ(器 口徑29.8×底径12.6×器高10.8cm)	後合No114		
12固-2	PL10-10	R2	PL11	滑石	標付	粗糲 Ⅴ(器 口徑30.0cm 反時計回転口-脚部白口 色調-内外面赤褐色、施土灰白色)	後合P1-湖乃-81		
12固-3	PL10-11	C1	PL57	滑石	標付	粗糲 Ⅵ(器 口徑30.0cm 内-外口-口縁部鉄部)標付	後合No10		
12固-4	PL10-12	B2-B3-C3	Hb	唐津	標付	粗糲 Ⅵ(器 口徑29.0cm 内-外口-口縁部鉄部)標付 延辺14条	後合No169		
12固-5	PL10-13	B2	E	鋼製品	標管	粗糲 長さ(8.2)×幅6.0×厚さ1.0cm 重量10.0g 12回-7と同一側体	B2 II-C46		
12固-6	PL10-14	C3	I	鋼製品	標管	粗糲 長さ(8.2)×幅6.0×厚さ0.6cm 重量5.5g	C3 I-C41		
12固-7	PL10-15	C3	I	鋼製品	標管	粗糲 口径(7.7)×幅5.0×厚さ0.5cm 重量3.1g 12回-SとH 備体	C3 I-C42		
PL10-16	C1	E	鋼製品	標管	粗糲 長さ(5.5)×幅6.0×厚さ0.5cm 重量2.5g	C1 II-C41			
PL10-17	E2	E	鋼製品	標管	粗糲 長さ(4.7)×幅6.0×厚さ0.6cm 重量1.2g	B2 II-C43			
PL10-18	B1	E	鋼製品	標管	粗糲 長さ(5.0)×直徑1.1cm 重量3.7g	B1 II-C41			
PL10-19	C3	E	骨角舟	中軸?	粗糲 長さ(3.5)×幅0.8×厚さ0.7cm 重量1.6g	C3 II-N1			
12固-8	PL10-20	B1	Ha	鋼製品	介	粗糲 長さ(8.9)×幅0.9×厚さ0.1cm 重量4.1g	B1 II-C41		
PL10-21	F2	E	鋼製品	分子	粗糲 長さ(10.7)×幅2.0×厚さ0.9cm 重量15.1g	B2 II-M7			
12固-9	PL10-22	E2	鋼製品	鉢	粗糲 鉢 空透青(墨青) 外径2.5×内径2.0×厚さ0.18cm 重量2.6g	B2標付-Z3			
12固-10	PL10-23	D2	E	鋼製品	鉢	粗糲 透青(墨青) 外径2.6×内径1.9×厚さ0.18cm 重量3.0g	B2 II-Z1		
12固-11	PL10-24	C3	I	鋼製品	鉢	粗糲 透青(墨青) 外径2.4×内径1.8×厚さ0.19cm 重量2.4g	C3 I-Z1		
PL10-25	C2	I	鋼製品	鉢	粗糲 透青(墨青) 外径2.5×内径1.9×厚さ0.22cm 重量3.4g	C2 I-Z1			
PL10-26	E2	E	鋼製品	鉢	粗糲 透青(墨青) 外径2.5×内径1.9×厚さ0.20cm 重量3.0g	B2 II-Z2			
12固-12	PL10-27	C2	E	鋼製品	鉢	粗糲 透青(墨青) 外径2.6×内径2.0×厚さ0.20cm 重量2.6g	C2 II-Z1		



III層 出土遺物分布図

- 青磁・白磁・染付
- 肥前系陶器
- 漆器・美濃
- 越前
- 灰・炭化物範囲
- ▲ 唐津

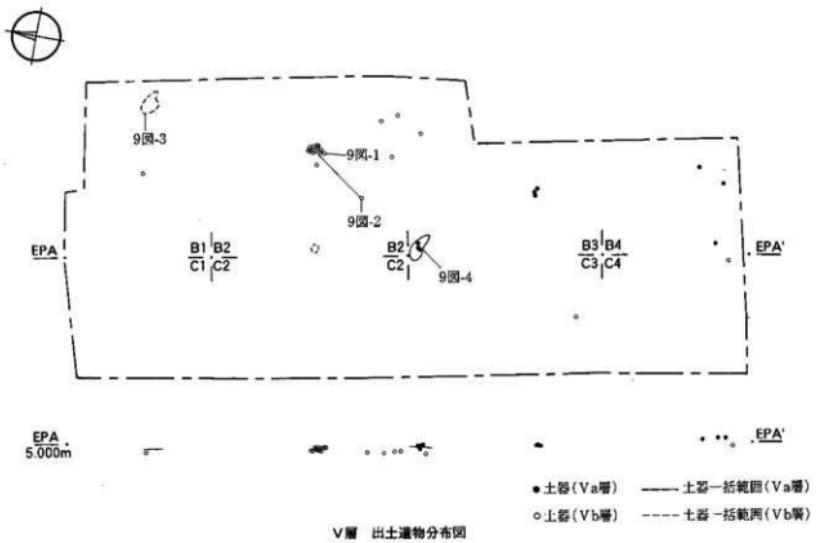


IV層 (Na層) 出土遺物分布図

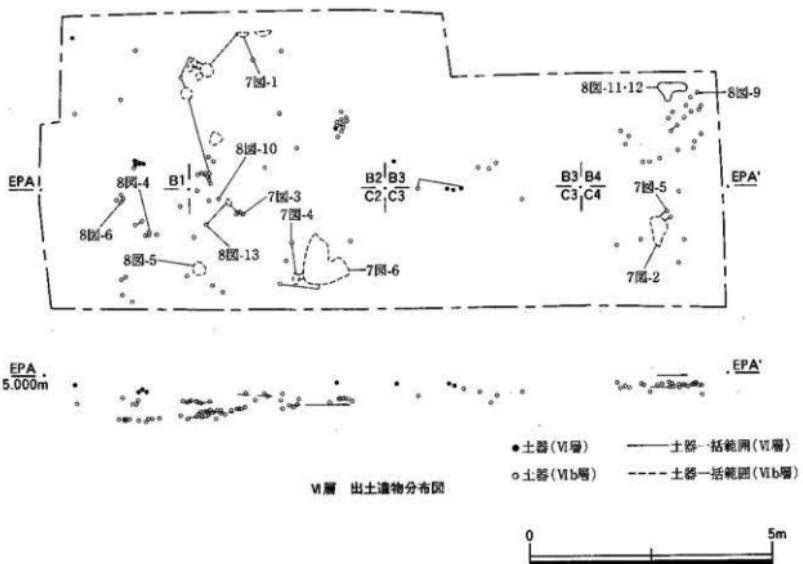
- 土器
- 土器一括範囲



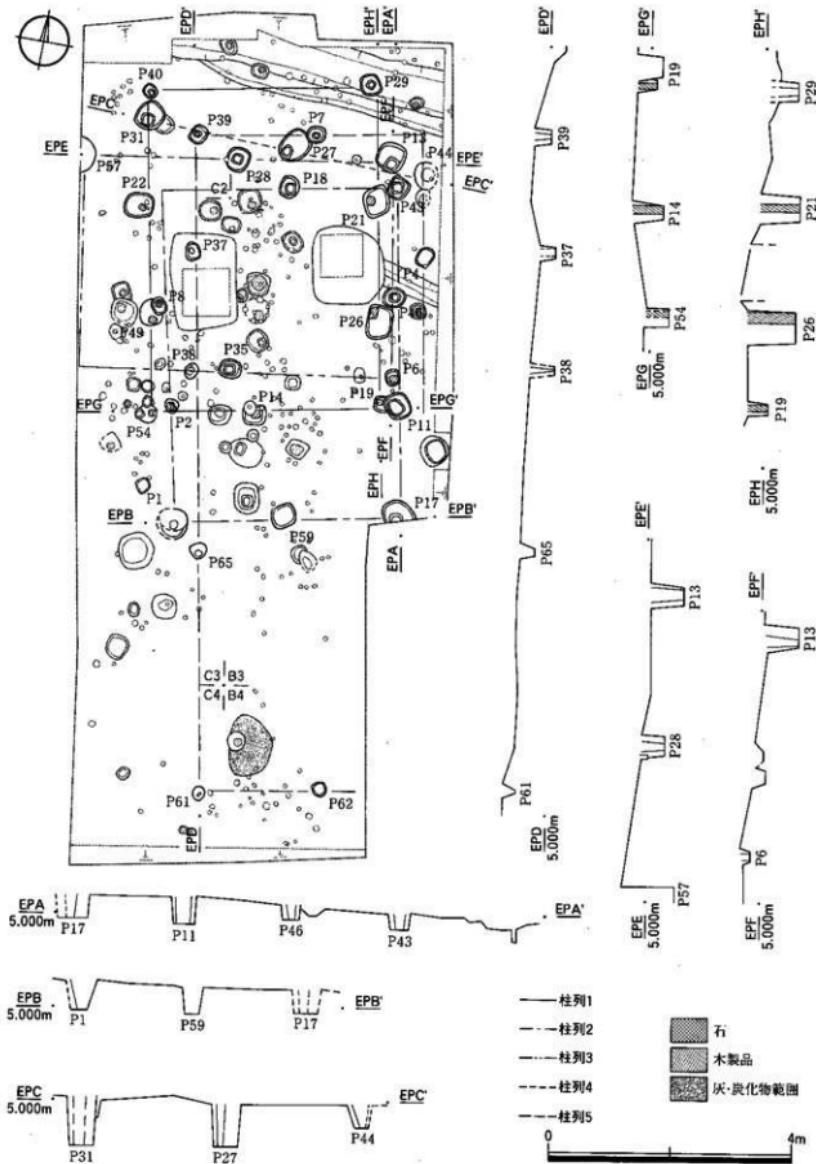
第4図 出土遺物分布図1



V層 出土遺物分布図



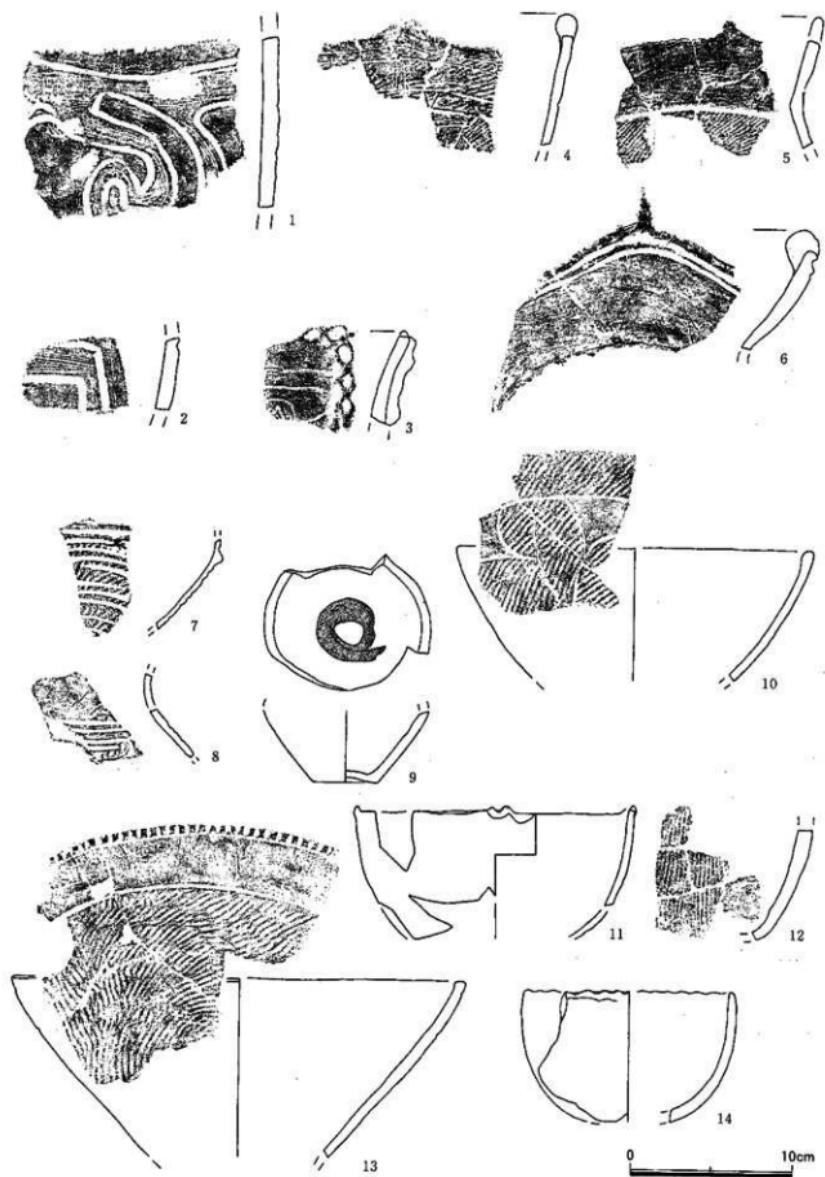
第5図 出土遺物分布図2



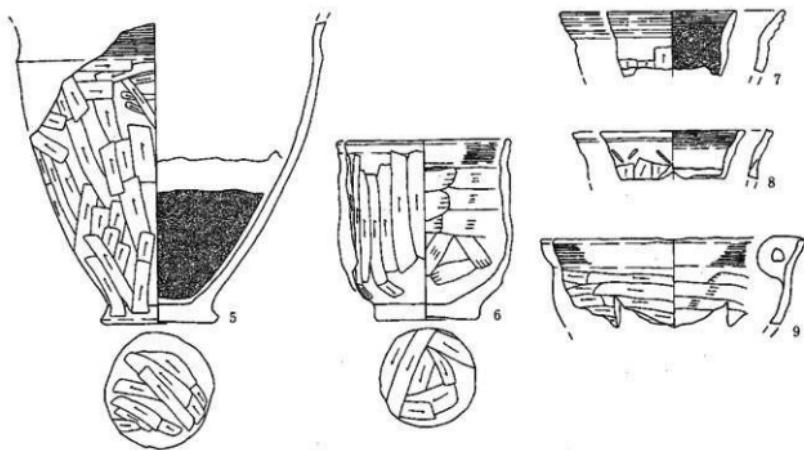
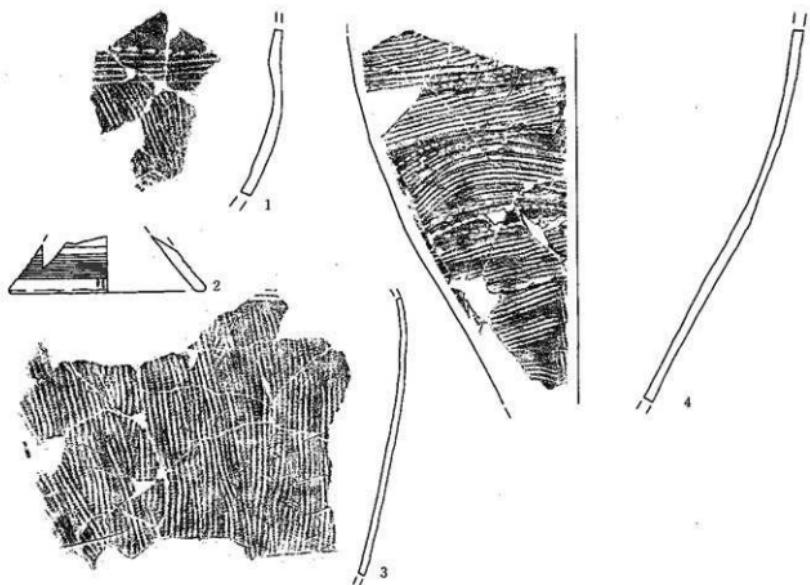
第6図 柱列想定図



第7図 出土遺物1（土器）

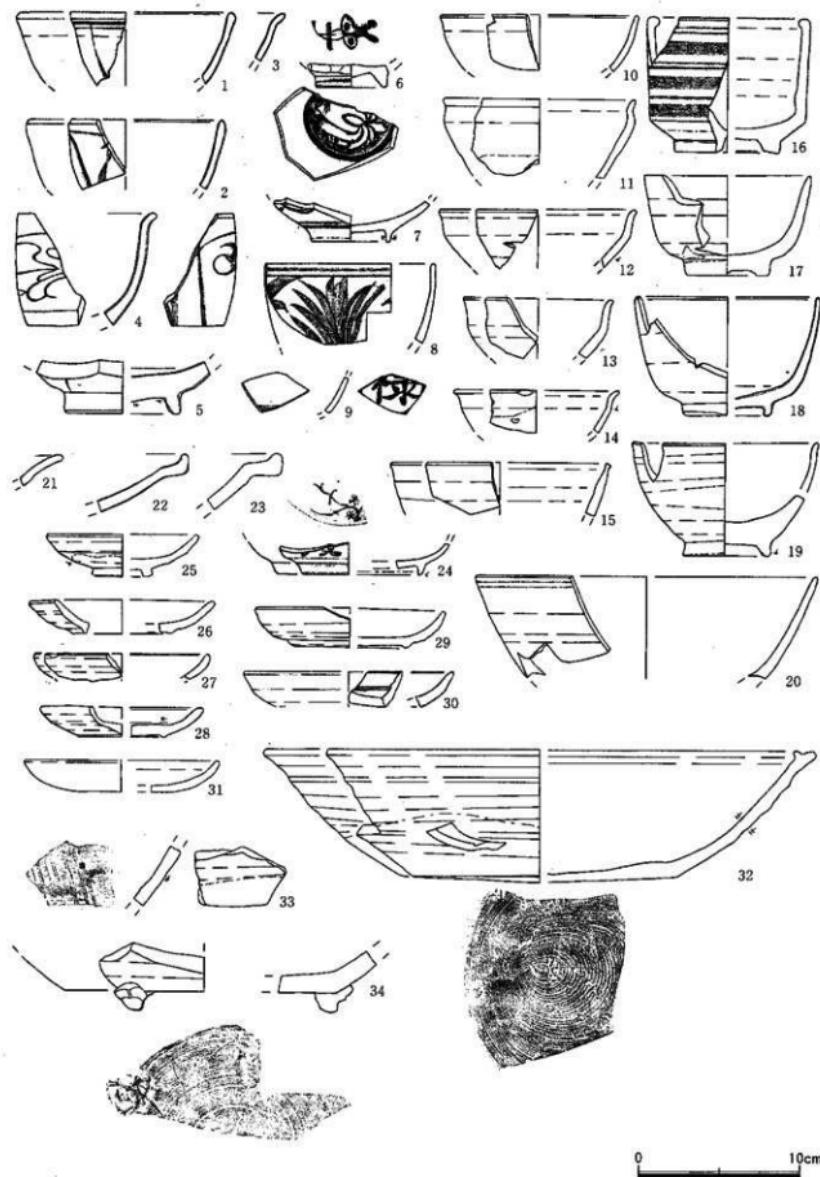


第8図 出土遺物2(土器)

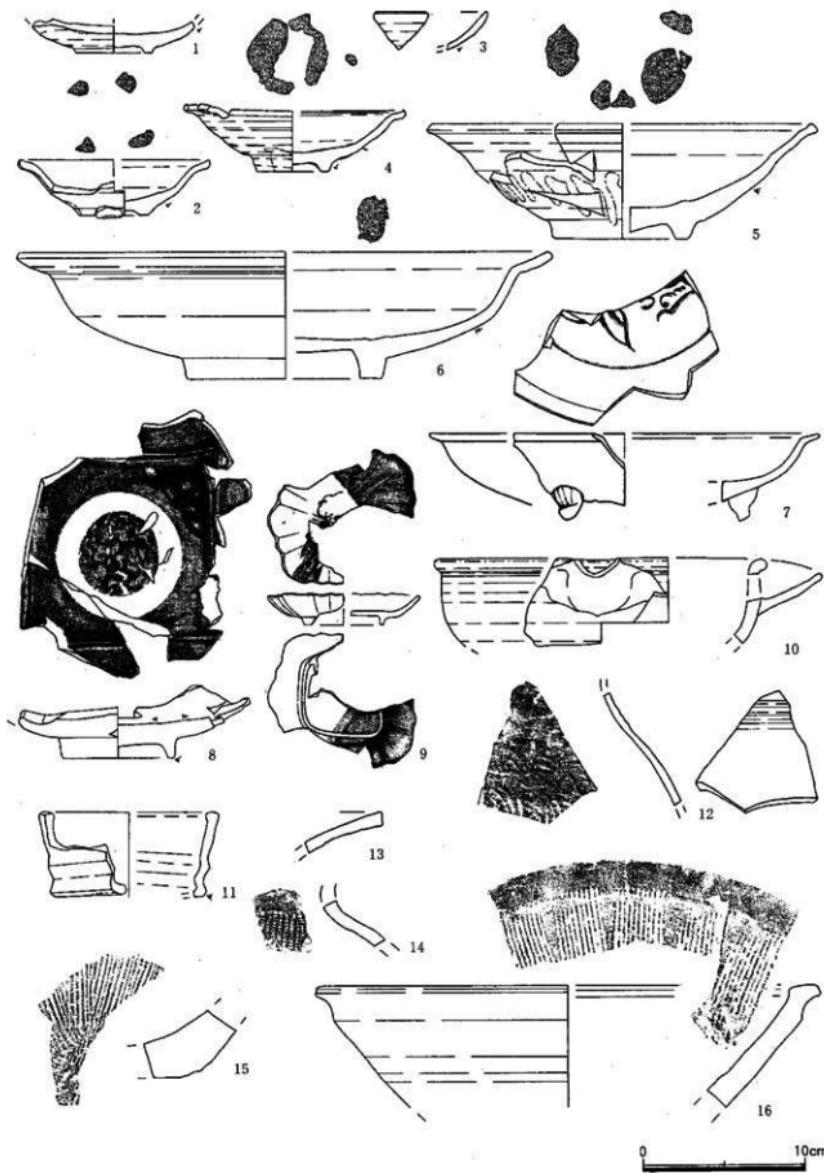


0 10cm

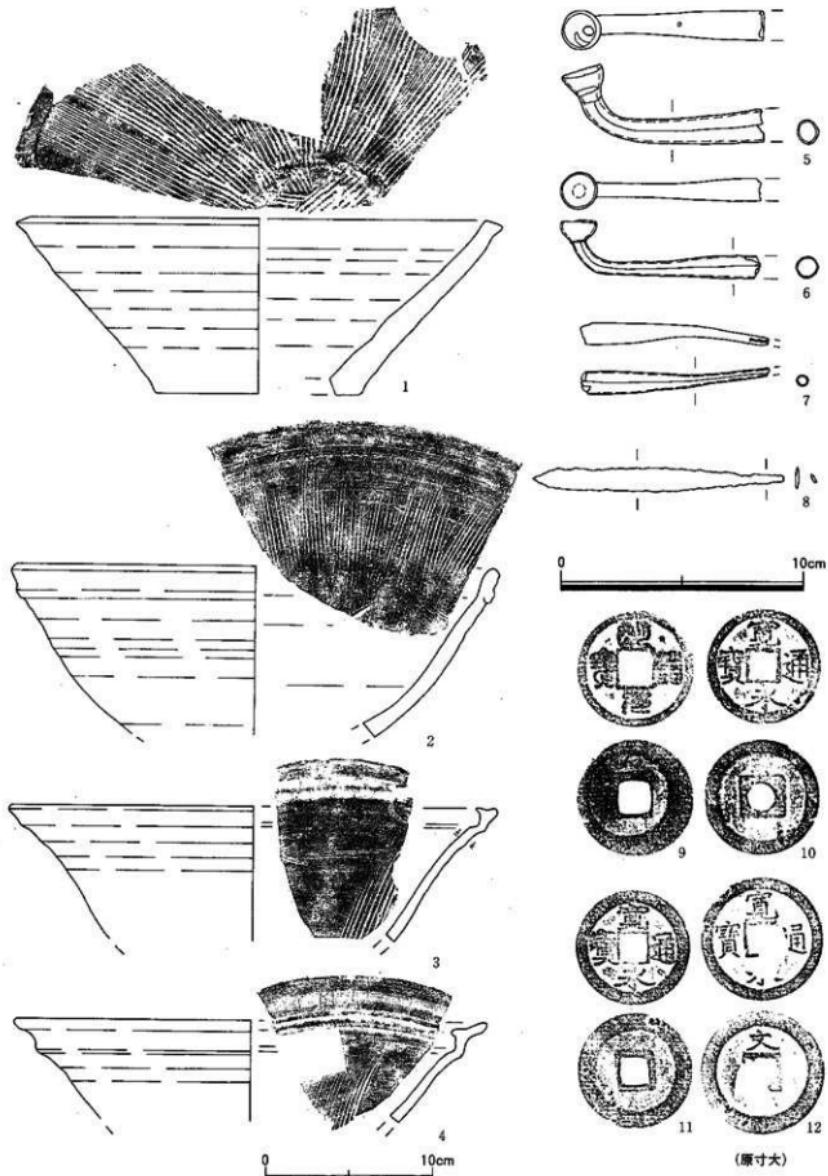
第9図 出土遺物3（土器）



第10図 出土遺物4（陶磁器・かわらけ）



第11図 出土遺物 5 (陶磁器・須恵器)



第12図 出土遺物 6 (陶磁器・銅製品)

史跡上之国花沢館跡

I 調査の概要

1. 調査にいたる経緯

花沢館跡は、天ノ川左岸に位置し、頂上部は標高約60mを測る。天ノ川の対岸には洲崎館跡が位置し、西側約1km先には、勝山館跡が位置している。

花沢館跡は昭和35年に道指定史跡、昭和52年には国指定史跡として登録されている。

昨年には史跡指定地内初めて発掘調査が行なわれ、空塹跡や15世紀中頃の年代を示す陶磁器などが出土したが、明確な建物跡などの遺構を確認することができなかつた。

そのため、今年度は建物跡などの遺構を確認する目的で正面の平坦面、舌状に張り出した平坦地を調査するとともに、昨年検出した空塹跡の続きを確認するため館後方に調査区を設定した。

2. 調査方法

グリッドは、大グリッドを20m方眼で南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで設定し、それらを組み合わせて6J、4K…と表記した。

さらに、大グリッドを4m方眼で25分割して小グリッドを設定し、6J21、4K3…と表記した。

遺物の取り上げは、I層出土のものは小グリッドを4分割して取り上げ、II層以下のものについては地点と標高値を記録し、層位ごとに取り上げた。

3. 調査経過

7月25日(月)

発掘器材を現場まで搬入し、調査区と周辺の草刈作業を行う。

8月1日(月)

第1・2調査区で表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。第2調査区では、溝1が検出される。調査区と周辺の簡易測量を行う。

8月8日(月)

第1調査区で溝2を検出する。第3調査区の表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。第3調査区で溝3を検出する。

8月16日(火)

第4調査区の表土剥ぎ、及び遺構精査を行う。

第4調査区の黒色土範囲から、珠洲播鉢などが出土する。

8月22日(月)

第1調査区で横列跡を確認した。第4調査区で検出した溝状黒色土範囲の遺物出土状況を撮影する。

8月23日(火)

第1調査区のセクション図、完掘平面図を作成する。

第4調査区で空塹跡を検出した。

8月29日(月)

第4調査区の完掘平面図とセクション図を作成する。

9月1日(木)

現地見学会を行う。

9月16日(金)

調査区にナイロンを敷いて埋め戻しを行う。発掘器材を撤収し、発掘調査を終了した。

4. 基本層序

本調査区で確認された基本的な層序は以下のとおりである。

I 層：近現代～現代に相当する堆積層で、3層に細分される。

I a層：現代の表土層である。

I b層：近現代の耕作土・盛土層である。

I c層：大正11年頃の表土層である。

II 層：近世に相当する堆積層である。下部には1640年降灰のK o - d（駒ヶ岳d）火山灰の層を含む。

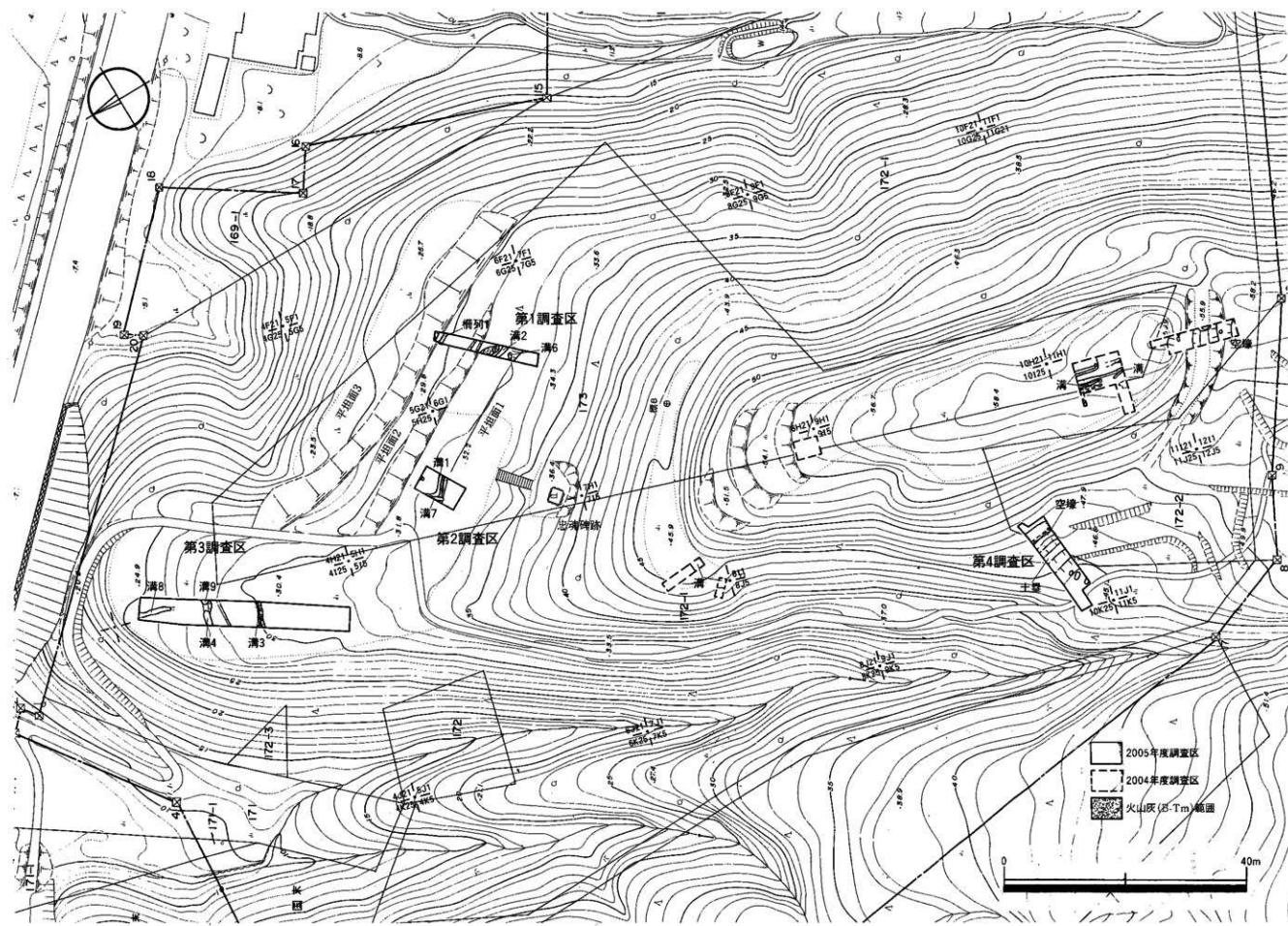
III 層：中世後期（15～16世紀）に相当する整地層である。

IV 層：縄文～擦文時代に相当する堆積層で、3層に細分される。

IV a層：黒色の腐植土層で、擦文期に相当する層である。

IV b層：IV a層の下層に堆積する10世紀中葉に降灰のB-T m（白頭山-苦小牧）火山灰である。

IV c層：IV b層の下層に堆積する黒色の腐植土層で縄文時代に相当する堆積層である。



第13図 遺構配置図

II 遺構確認調査

1. 検出遺構

第1調査区（第14図、PL 2-1・2、4-11～5-1）

〔位置〕6 Gグリッドに位置する。

〔堆積土〕忠魂碑建設当時（大正11年）に整地をした、厚さ約50cmの盛土（I b層）を確認した。盛土はロームを多く含むため、地山を削平して現在見られる平坦地を造成したと思われる。

〔検出遺構〕横列1、溝2、溝6を検出した。

〔出土遺物〕近現代の盛土から、石製品の茶臼1点が出土している。

横列1（第14図、PL 2-2）

〔位置〕6 G 8グリッドの平坦面2に位置する。

〔形態・規模〕南東から北西方向へ直線的に延び、長さは残存値で200cm、幅約30cm、深さ約33cmを測る。底面に直径約20cm、深さ10～20cmの杭穴（P 1～4）を4基伴う。

〔堆積土〕3層に分層される（SPA～SPA'）。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

溝2（第14図、PL 4-13）

〔位置〕6 G 17グリッドに位置する。溝2は位置や形態・規模・堆積土から、第2調査区で検出した溝1に繋がる可能性がある。

〔形態・規模〕南東から北西方向へ直線的に延び、長さは残存値で204cm、幅約44cm、深さ約30cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、覆土上面にKo-dが層状に堆積し、2層に分層される（SPA～SPA'）。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

溝6（第14図、PL 4-13）

〔位置〕6 G 17グリッドに位置する。

〔形態・規模〕北西から南東方向へ延び、先端部で東へ曲がる。長さは残存値で100cm、幅約40、深さ約19cmを測る。

〔堆積土〕自然堆積を呈し、2層に分層される（SPA～SPA'）。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

第2調査区（第15図、PL 5-2～6）

〔位置〕5 H・6 Hグリッドに位置する。

〔堆積土〕第1調査区同様の盛土が約60cmの厚さで堆積しているのを確認した。

〔検出遺構〕溝1、溝7、焼土1を検出した。

〔出土遺物〕なし

溝1（第15図、PL 5-5）

〔位置〕5 H 17・22・23グリッドの平坦面2に位置する。

〔形態・規模〕南東から北西方向へ延び、北東方向へほぼ直角に曲がる。長軸は残存値で510cm、短軸約44cm、深さ約14cmを測る。

〔堆積土〕4層に分層され、暗褐色・黒褐色を呈し、自然堆積である（SPA～SPA'）。

〔新旧関係〕切り合い関係から、溝7より古い。

〔出土遺物〕なし

溝7（第15図、PL 5-6）

〔位置〕5 H 17・22グリッドに位置する。

〔形態・規模〕南西から北東方向へ延び、長軸は残存値で220cm、幅約40cm、深さ約20を測る。

〔堆積土〕ロームブロックや玉砂利などが多く混入し、6層に分層される（SPF～SPF'）。

〔新旧関係〕切り合い関係から、溝1より新しい。

〔出土遺物〕なし

焼土1（第15図、PL 2-5）

〔位置〕5 H 18グリッドに位置する。

〔形態・規模〕平面形は橢円形を呈し、長軸42cm、短軸32cm、深さ8cmを測る。

〔堆積土〕赤褐色のローム粒を多く含む。

〔新旧関係〕なし 〔出土遺物〕なし

第3調査区（第16図、PL 2-6・8、5-7～15）

〔位置〕3 H・4 Iグリッドに位置する。

〔堆積土〕表土層の約10～15cm下にローム層（V層）が堆積する。

〔検出遺構〕溝3・4・8・9を検出し、平坦地が2面確認された。また、作物の植え付け用と思われる穴（搅乱）が多数確認された。

〔出土遺物〕溝3から鉄製品の釘、V層直上からガラスや近現代陶磁器が出土している。

溝3（第16図、PL 2-6・8、5-8～11）

〔位置〕4 I 4・5グリッドに位置する。

〔形態・規模〕西から東方向へ直線的に延び、長さは400cm、幅約22cm、深さ底面に直径約20cm、深さ10～20cmの杭穴（P 5～12）を8基伴う。

〔堆積土〕1層に分層される（SPB～SPB'）。

〔新旧関係〕なし

〔出土遺物〕覆土から木質が付着した鉄釘1点が出土している。

溝4（第16図、PL 2-8・5-13）

【位置】3I 20グリッドに位置する。

【形態・規模】西から東方向へ直線的に延び、長さは残存値で280cm、幅約100cm、深さ約20cmを測る。

【堆積土】自然堆積を呈し、覆土上面にK o-dが層状に堆積し、2層に分層される（SPA～SP A'）。

【新旧関係】なし [出土遺物]なし

溝8（第16図、PL 5-12・15）

【位置】3H 6・11グリッドに位置する。

【形態・規模】南から北方向へ直線的に延び、長さは残存値で540cm、幅約50cm、深さ約20cmを測る。

【堆積土】人為的堆積を呈し、5～10cm大のロームブロックが多量に混入している。

【新旧関係】なし [出土遺物]なし

溝9（第16図、PL 5-14）

【位置】3H 16・3I 20グリッドに位置する。

【形態・規模】西から東方向へ延び、長さは残存値で50cm、幅約104cm、深さ約10cmを測る。

【堆積土】自然堆積を呈し、4層に分層される（SPA～SPA'）。

【新旧関係】なし [出土遺物]なし

第4調査区（第17図、PL 2-7・9、6）

【位置】10Jグリッドに位置する。

【堆積土】空塙の掘り上げ土と思われる盛土（土壘）が堆積している。

【検出遺構】空塙跡、土壘、土塙1～3を検出した。なお、今回遺構とはしなかったが、遺物が集中して見られた溝状黒色土範囲の概要をここで述べる。

【出土遺物】青磁碗8点、白磁皿6点、珠洲擂鉢169点、銅鏡6点が出土している。

空塙（第17図、PL 2-9・6-5）

【位置】10J 13・14・18・19グリッドに位置する。

【形態・規模】箱掘を呈し、南から北方向へ延び、長さは残存値で398cm、上面幅約200～220cm、底面幅80～100cm、深さ約94cmを測る。

【堆積土】5～10cm大の玉砂利を多量に含み、人為的堆積を呈す。10層に分層される（SPA～SP A'）。

【新旧関係】溝状黒色土範囲より下位の堆積が確認されたため、溝状黒色土範囲より古い。

[出土遺物]なし

土壘（第17図、PL 6-6・7）

【位置】10J 13・18グリッドに位置する。

【形態・規模】長さは残存値で394cm、幅約127cm、深さ約128cmを測る。

【堆積土】玉砂利を多量に含み、13層に分層される（SPA～SPA'）。

【新旧関係】土塙1～3より古い。

[出土遺物]なし

溝状黒色土範囲（第17図、PL 6-5・8）

【位置】10J 14・19グリッドに位置する。

【形態・規模】長さは残存値で390cm、幅約190cm、深さ約18cmを測る。

【堆積土】4層に分層される（SPA～SPA'）。

【新旧関係】空塙埋没後の堆積が確認されたため、空塙より新しい。

【出土遺物】青磁碗2点、珠洲擂鉢39点、銅鏡2点が出土している。

土塙1（第17図、PL 6-11）

【位置】10J 17グリッドに位置する。

【形態・規模】平面形は梢円形を呈し、長軸142cm、短軸50cm、深さ約28cmを測る。

【堆積土】自然堆積を呈し、覆土上面にK o-d火山灰が層状に堆積し、6層に分層される（SP A～SPA'）。

【新旧関係】切り合い関係から土壘より新しい。

[出土遺物]なし

土塙2（第17図、PL 6-9・10）

【位置】10J 21・22グリッドに位置する。

【形態・規模】平面形は梢円形を呈し、長軸は残存値で76cm、短軸52cm、深さ約25cmを測る。

【堆積土】自然堆積を呈し、覆土上面にK o-d火山灰が層状に堆積し、5層に分層される（SP B～SPB'）。

【新旧関係】切り合い関係から土壘より新しい。

[出土遺物]なし

土塙3（第17図、PL 6-12）

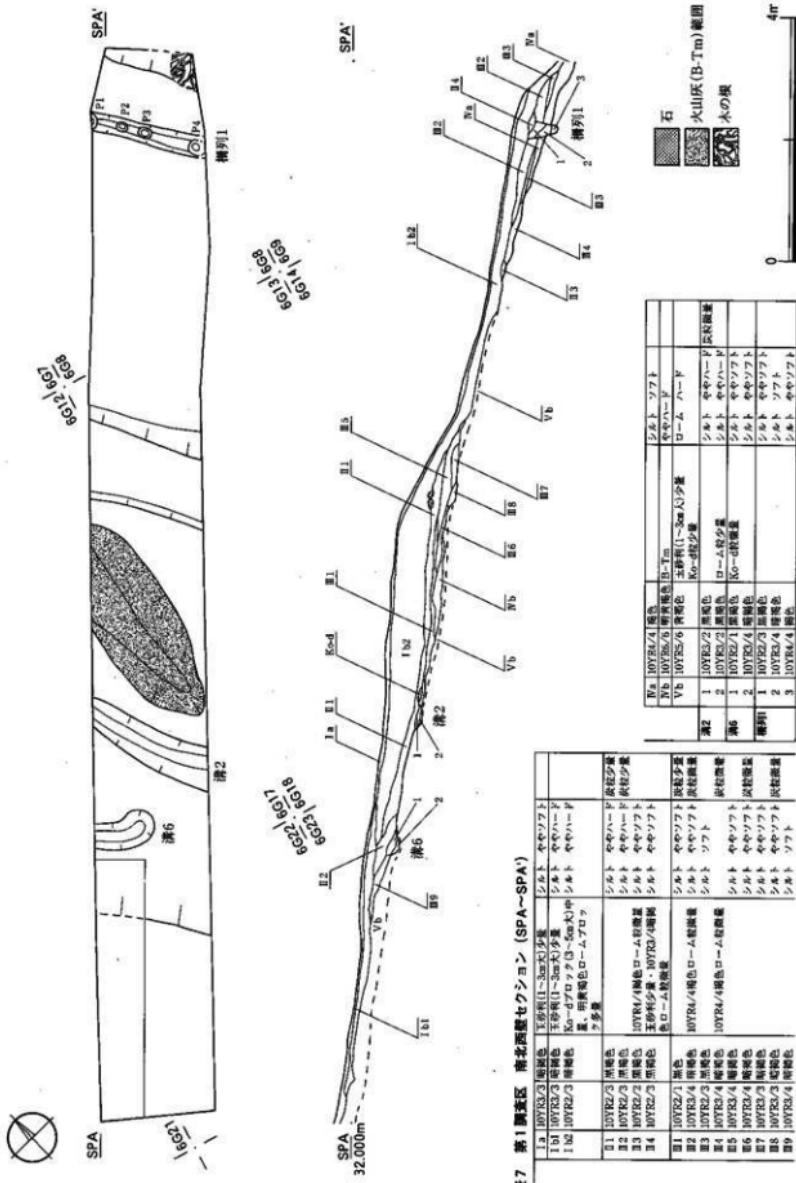
【位置】10J 17グリッドに位置する。

【形態・規模】平面形は梢円形を呈し、長軸70cm、短軸40cm、深さ約20cmを測る。

【堆積土】黒色・黒褐色を呈し、自然堆積である。

【新旧関係】切り合い関係から土壘より新しい。

[出土遺物]なし



第14図 第1調査区平面図他

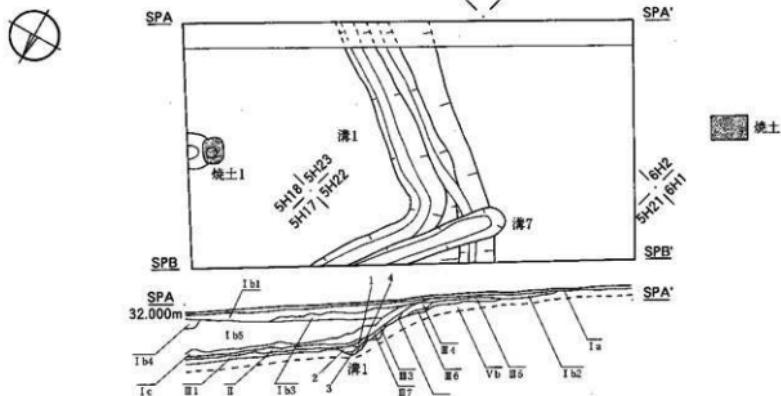


表8 第2調査区 南北東壁セクション (SPA~SPA')

I-a	10YR3/3	暗褐色	シルト ややソフト
I-b1	10YR3/2	暗褐色	シルト (1~3cm)少量 玉砂利 (1~3cm)少量
I-b2	10YR5/4	褐色	シルト ややハード
I-b3	10YR2/3	黒褐色	シルト ややソフト
I-b4	10YR4/4	褐色	シルト ややハード
I-b5	10YR2/3	黒褐色	Ko-d粒状 玉砂利 (1~3cm)少量 Ko-d粒状 玉砂利 (1~3cm)少量
I-c	10YR2/3	暗褐色	Ko-d粒状 玉砂利 (1~3cm)多量
II-a	10YR2/3	暗褐色	シルト ややハード
III-a	10YR2/1	暗褐色	シルト ややソフト
			武鉱少量
E2	10YR2/3	黒褐色	シルト ややソフト
E3	10YR4/4	黒褐色	Ko-d粒状
E4	10YR4/4	褐色	シルト ソフト
E5	10YR4/4	褐色	シルト ソフト
E6	10YR4/4	褐色	Ko-d粒状
E7	10YR4/4	褐色	Ko-d粒状
Vb	10YR5/6	暗褐色	玉砂利 (1~3cm)少量 Ko-d粒状 ローム
調1	1	10YR2/1	黒褐色
	2	10YR1.7/1	黒褐色
	3	10YR1.7/1	黒褐色
	4	10YR2/1	黒褐色

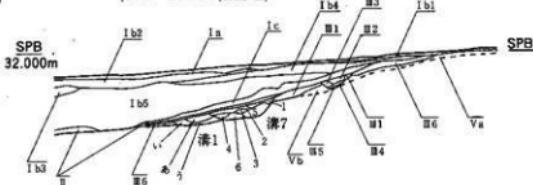
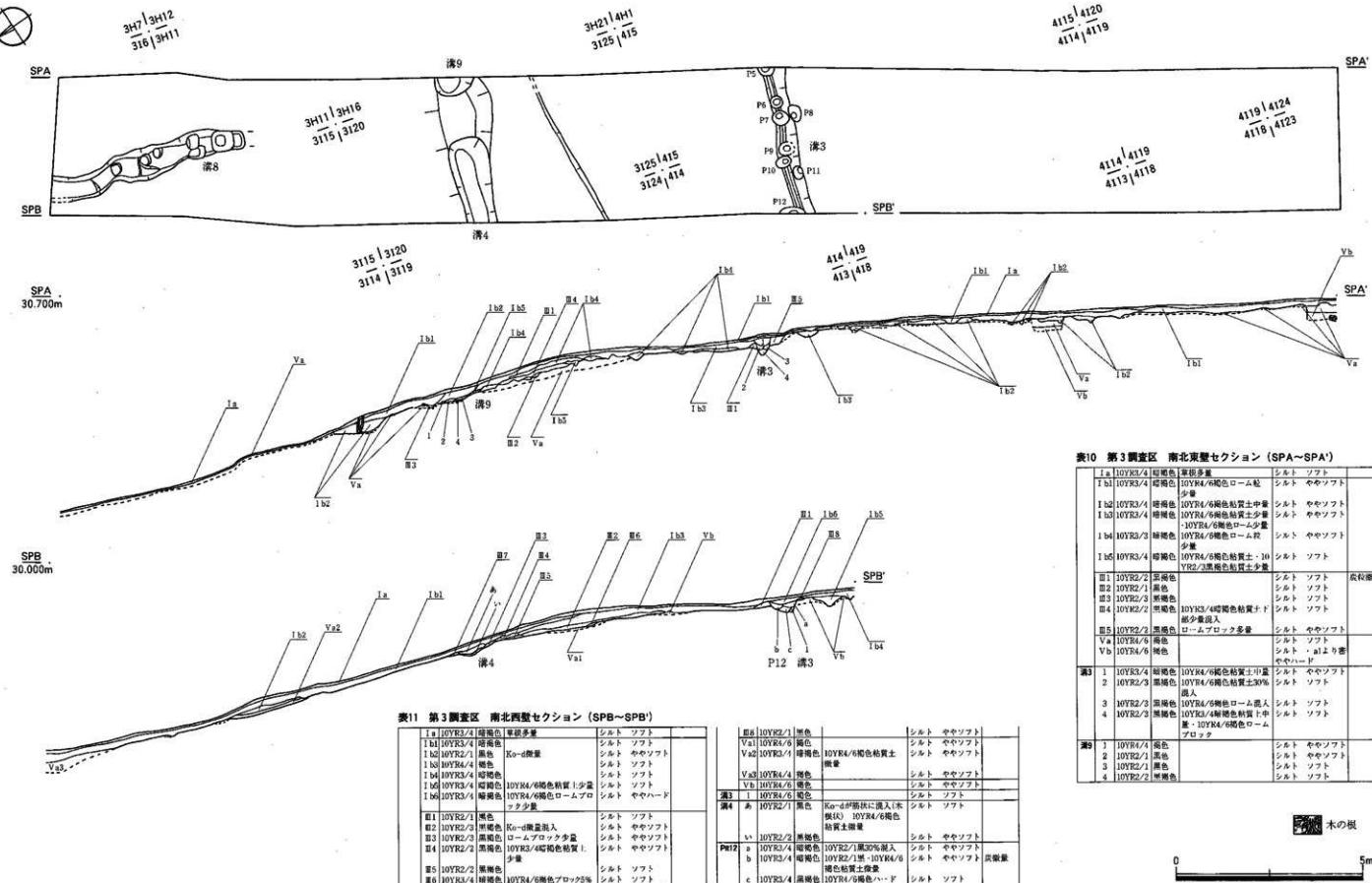
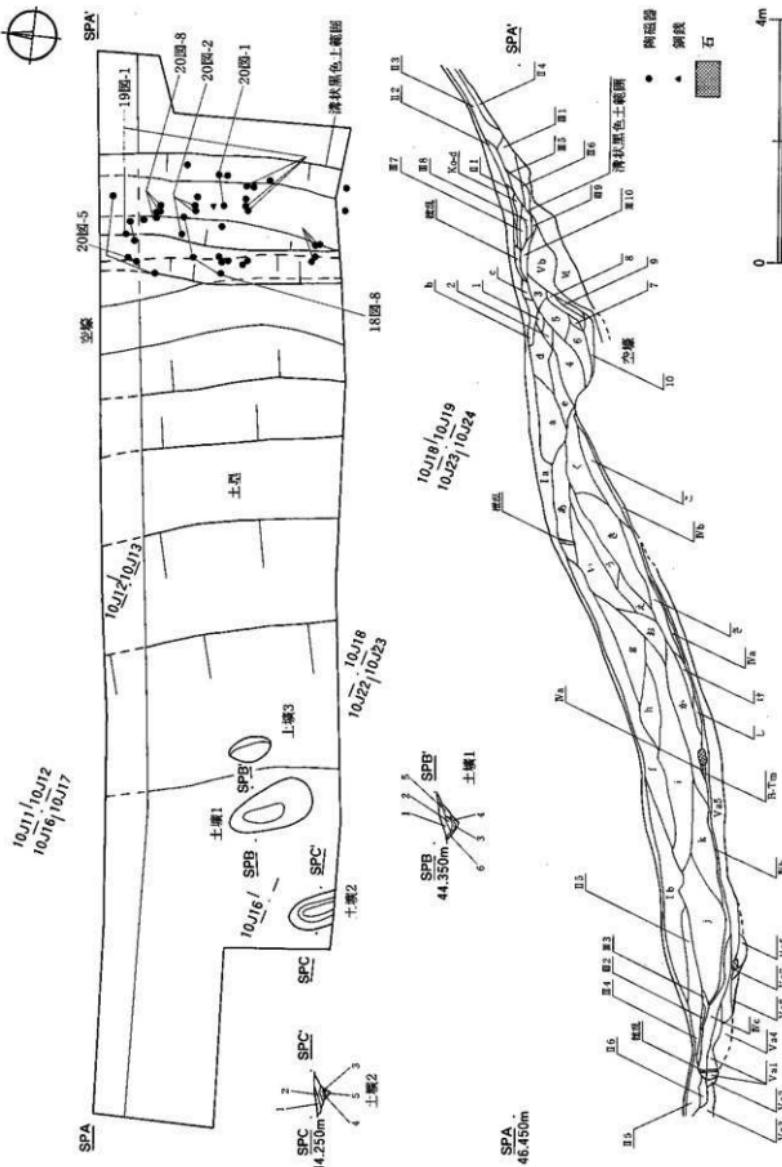


表9 第2調査区 南北西壁セクション (SPB~SPB')

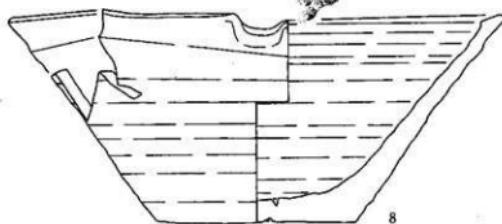
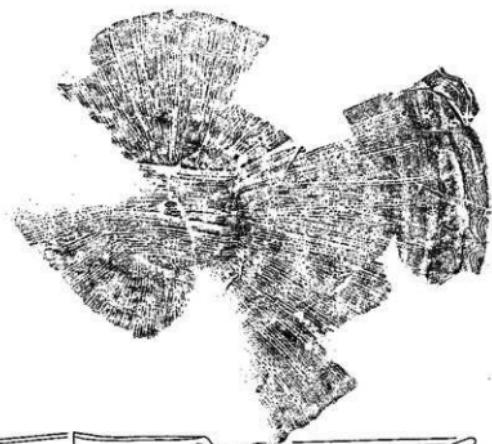
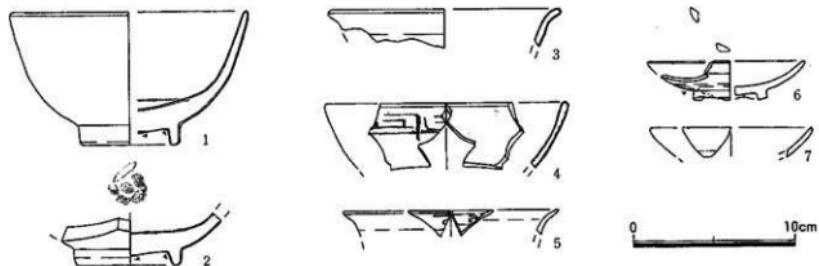
I-1a	10YR4/2	3	にふく 玉砂利少量	シルト ややソフト		
I-1b	10YR4/4	3	にふく 黄褐色	ややハード		
I-2a	10YR4/3	3	にふく ハードローム・下斜り少量	シルト	底少量	
I-2b	10YR4/4	3	にふく 褐色	シルト	底無量	
I-3a	10YR4/2	3	褐色 ハードローム少量	シルト	底無量	
I-3b	10YR2/3	3	褐色 ハードローム	シルト	底無量	
I-3c	10YR2/3	3	褐色 玉砂利(1~3cm)少量	シルト	ハード	
I-4a	10YR2/3	3	黒褐色 Ko-dブロック(3~5cm大) 小量、明褐色ロームプロ ック多量	シルト ややソフト		
I-4b	10YR2/3	3	黒褐色	シルト ややソフト		
I-5a	10YR2/3	3	黒褐色	シルト ややソフト		
I-5b	10YR2/3	3	黒褐色	シルト ややソフト		
I-5c	10YR2/3	3	黒褐色	シルト ややソフト		
I-6	10YR4/3	3	にふく 玉砂利少量	シルト ローム少量	湿性	底微量
I-7a	10YR4/6	3	にふく 褐色	シルト ローム少量	ソフト	
I-7b	10YR4/6	3	にふく 褐色	ハードローム少量	シルト ハード	
調1	10YR2/1	1	黒色 Ko-d量	シルト ややハード		
1	10YR2/3	1	黒褐色 Ko-d量	シルト ややハード		
2	10YR2/3	1	黒褐色 少量	ハードローム少量	シルト ややハード	
3	10YR2/3	1	にふく 黄褐色 少量	シルト ややソフト		
4	10YR2/3	1	黒褐色 玉砂利	シルト ややソフト		
5	10YR4/4	1	褐色 玉砂利少量	シルト ややハード		
6	10YR4/4	1	褐色 玉砂利微量	シルト ややハード		
		0				4m



第16図 第3調査区平面図他

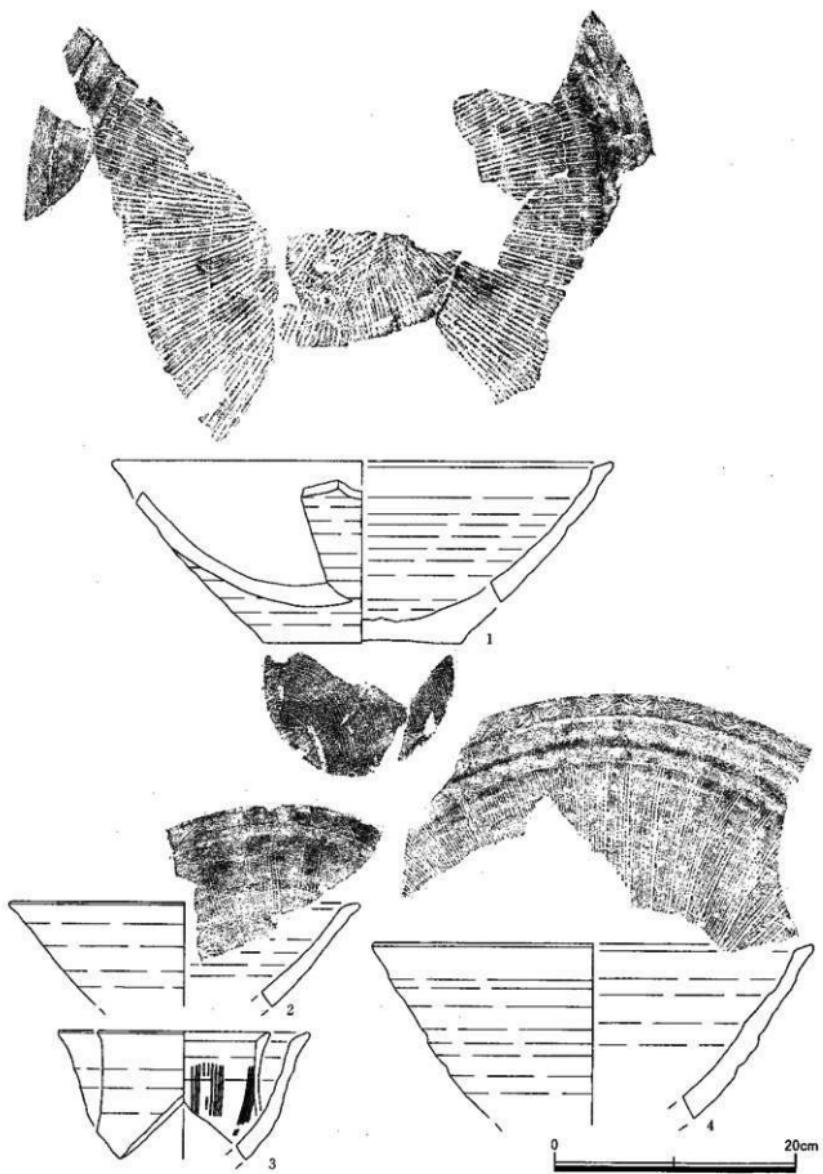


第17図 第4調査区平面図他

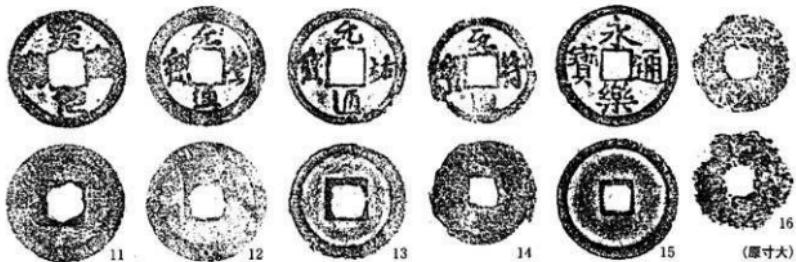
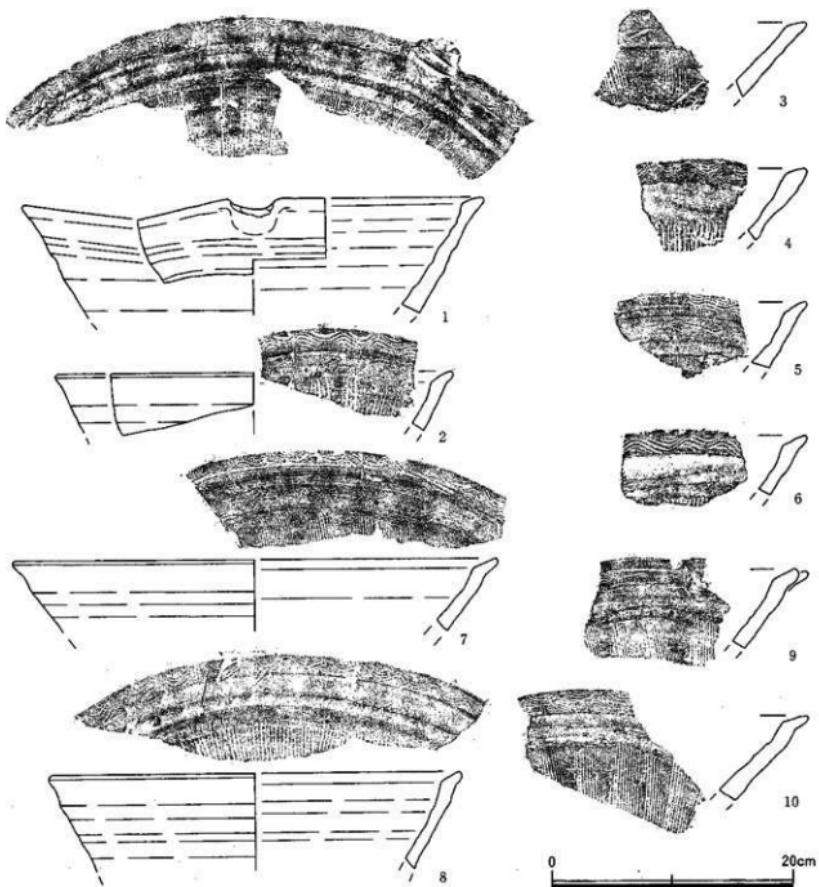


0 20cm

第18図 出土遺物7（陶磁器）



第19図 出土遺物 8 (陶磁器)



第20図 出土遺物9 (陶磁器・銅製品)

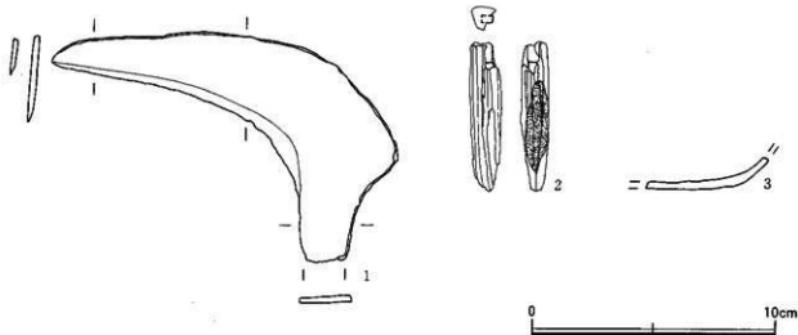


表12 第4調査区 東西北壁セクション (SPA~SPA')

I-1	10YR2-2	黒褐色 土砂利多量 玉砂利混入 ソフト	
I-2	10YR2-3	黒褐色 土砂利多量 ややソフト	
II-1	10YR3-3	褐色 土砂利少量 やや硬	
II-2	10YR3-1	黒褐色 土砂利少量 ややソフト	
II-3	10YR3-1	黒褐色 土砂利多量 ややソフト	
B-4	10YR2-2	黒褐色 土砂利(1~3cm大) 多量 やや密	
B-5	10YR2-2	黒褐色 三枚判・織版張 やや密	
B-6	10YR2-3	黒褐色 土砂利微量 Ⅲ-5よりソフト 色褪量	
B-1	10YR2-1	黒褐色 土砂利多量 ソフト	
B-2	7.5YR2-4	暗褐色 分散土粒子多量 ソフト	
B-3	7.5YR1.7/1	黒色 7.5YR2-4暗褐色土少量 ソフト	
B-4	10YR2-2	黒色 Ko-d軟量	
B-5	10YR2-1	暗褐色 土砂利中量 ややソフト	
B-6	10YR2-1	黒褐色 土砂利多量 ややソフト	

褐色 土 範囲	B-7	10YR2-2	黒褐色 土砂利微量 ハード やや粘質 色褪量
N-8	10YR2-2	黒褐色 土砂利少量 ハード やや粘質 色褪量	
N-9	10YR2-2	黒色 土砂利少量 ソフト 少量	
III-10	10YR2-2	黒褐色 土砂利多量 やや硬	

褐色 土 範囲	N-8	10YR2-2	黒褐色 B-Tm粘少量 ソフト 色褪量
N-9	10YR2-2	黒褐色 B-Tm粘多量 ソフト 色褪量	
N-10	10YR2-2	黒褐色 B-Tm粘多量 ソフト 色褪量	
V-1	7.5YR3-3	褐色 土砂利少量 ややソフト	
V-2	10YR4-6	褐色 土砂利少量 ソフト	
V-3	10YR4-6	褐色 土砂利少量 ややソフト	
V-4	7.5YR4-4	褐色 土砂利多量 ソフト	
V-5	7.5YR4-6	褐色 土砂利微量 シルト ハード	
V-6	10YR2-3	褐色 土砂利微量 シルト ハード	
V-7	10YR2-4	褐色 土砂利微量 シルト ハード	

褐色 土 範囲	V-8	10YR2-4	褐色 土砂利微量 シルト ハード
V-9	10YR2-4	褐色 土砂利少量 シルト ハード	
V-10	10YR2-3	褐色 土砂利多量 やや硬	
V-11	7.5YR4-4	褐色 土砂利多量 ややソフト	
V-12	7.5YR4-4	褐色 土砂利少量 ソフト	
V-13	7.5YR4-4	褐色 土砂利多量 ややソフト	
V-14	7.5YR4-4	褐色 土砂利・石・基盤礁多量 ソフト	
V-15	7.5YR4-4	褐色 土砂利・石多量 下層Ko-d軟量	
V-16	7.5YR4-4	褐色 土砂利混入 ややハード	
V-17	7.5YR4-4	褐色 土砂利少量 シルト ハード	
V-18	10YR2-4	褐色 土砂利少量 シルト ハード	
V-19	10YR2-4	褐色 土砂利少量 ややソフト	

褐色 土 範囲	V-20	10YR2-3	褐色 土砂利多量 ややハード
V-21	7.5YR4-4	褐色 土砂利多量 ややソフト	
V-22	7.5YR4-4	褐色 土砂利少量 ソフト	
V-23	7.5YR4-4	褐色 土砂利多量 ややソフト	
V-24	7.5YR4-4	褐色 土砂利・石・基盤礁多量 ソフト	
V-25	7.5YR4-4	褐色 土砂利・石多量 下層Ko-d軟量	
V-26	7.5YR4-4	褐色 土砂利混入 ややハード	
V-27	7.5YR4-4	褐色 土砂利少量 シルト ハード	
V-28	10YR2-4	褐色 土砂利少量 シルト ハード	
V-29	10YR2-4	褐色 土砂利少量 ややソフト	

褐色 土 範囲	6	10YR4-4	褐色 土砂利(5~10cm大) シルト より繊維多量
	7	10YR4-4	褐色 粘質主張 土砂利多量 シルト ややハード
	8	10YR4-4	褐色 ハードローム 土砂利少量 シルト ややハード
	9	10YR4-4	褐色 ハードローム 土砂利多量 シルト やや柔軟
	10	10YR4-4	褐色 土砂利(5~10cm大) 多量 ソフト ソフト

褐色 土 範囲	a	10YR3-4	褐色 土砂利少量 ソフト
	b	10YR4-4	褐色 土砂利少量 ソフト
	c	10YR4-4	褐色 土砂利少量 ソフト
	d	10YR4-6	褐色 土砂利少量 ソフト
	e	10YR4-6	褐色 土砂利少量 ソフト

褐色 土 範囲	f	10YR4-3	褐色 土砂利多量 シルト ソフト 色褪量
	g	10YR4-3	褐色 土砂利・石中量 ソフト ややソフト
	h	7.5YR4-4	褐色 土砂利少量 ソフト やや柔軟
	i	10YR4-4	褐色 土砂利・石の割合・基盤礁多量 ソフト やや柔軟
	j	10YR4-4	褐色 土砂利多量 ややハード
	k	10YR4-4	褐色 土砂利多量 ややソフト

褐色 土 範囲	1	10YR2-1	黒褐色 Ko-d軟量 シルト ややソフト
	2	10YR2-1	黒褐色 Ko-d軟・ローム状微量 シルト ややソフト
	3	10YR2-1	黒褐色 下砂利少量 シルト ややソフト
	4	10YR2-1	黒褐色 ロームブロック少量 シルト ややソフト
	5	10YR2-3	暗褐色 0.1~2cm大玉砂利少量 シルト ややソフト
	6	10YR2-3	黒褐色 土砂利少量 シルト ソフト

第21図 出土遺物10 (鉄製品)

2. 出土遺物

本調査からは、破片数で209点の遺物が出土している。実測・写真等の報告書掲載遺物に関しては、観察表を付した(表15)。

a. 陶磁器 (18~20図-10、PL11-1~22)

中世陶磁器は総破片数183点で、個体数にして4.67個体(口縁部個体数)である。貿易陶磁は、青磁8点、白磁6点で構成される。国産陶磁は、珠洲169点のみで構成され、全体として珠洲が大きな割合を占めている。

遺物のほとんどは、第4調査区の溝状黒色土範囲からの出土である。

青磁 (18図-1~4、PL2-13, 11-1~4)

器種は碗で構成され、龍泉窯系碗D2類2点、龍泉窯系碗E類5点、龍泉窯系碗類不明1点が出土している。見込みは印花文を施し、高台裏は釉が輪状に削り取られるものが多く見られる。

なお、昨年度調査で、龍泉窯系碗C2類の外面口縁部に雷文帯を施すものが1点出土しているが、昨年度調査報告書で未報告であったため今年度報告書に掲載した。

表15 花沢跡 土出遺物観察表

図版No.	PL区	グリット	遺構	部位	断面区	種別	種類	備 考		整理No.	
								寸法	寸法		
18図-1	PL11-1	10214	溝状	底	4	青磁	碗	慶良系系E類	口径14.7×高さ9.2×底径6.4cm	横合No.33	
18図-2	PL11-3	10113	溝状	底	4	青磁	碗	慶良系系不明	底径6.2cm、内面-見込花文	10143 I-E1	
18図-3	PL11-2	10114	溝状	底	4	青磁	碗	慶良系系E類	底径6.2cm、内面-14.5cm	横合No.32	
PL11-4		10114			4	青磁	碗	慶良系系E類		10144 I-E73	
18図-4	PL2-2	11110			4	青磁	碗	慶良系系E類	口径14.7×高さ9.3~9.4cm	外面-日神部雷文	041110-I-41-E1, D
18図-5	PL2-2	11115			4	青磁	碗	慶良系系E類	口径13.3×高さ1.6cm	外面-日神部雷文○、内面-日神部梵字	041115-I-31-E2
18図-6	PL11-7	10114			4	白磁	碗	DFP丸底	切両面-11.8cm×2.2cm×底径4.5cm、外面-櫻紋款記、内面-日神部	横合No.34	
18図-7	PL11-5	10114			4	白磁	碗	DFP丸底	口径9.9cm、底径5.5cm	10144 I-E4	
18図-8	PL11-8	10114-19	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径40.4cm基高7.2cm底径15.9cm、外面-11縫隙片口、内面-口縫隙片口	横合No.1	
19図-1	PL11-9	10114-19	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径41.2×高さ15.7×底径15.0cm、内面-11縫隙片口底	横合No.10	
19図-2	PL11-10	10114	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径42.0cm、内面-11縫隙片口10mm、70年位の遺物と複合	横合No.11	
19図-3	PL11-11	10114			4	青磁	碗	V形	口径29.9cm、内面-11縫隙片口9条、スヌ	横合No.21	
19図-4	PL11-12	10114	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径35.2cm、内面-11縫隙片口底	横合No.5	
20図-1	PL11-13	10114-19	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径38.3cm、外面-11縫隙片口、内面-11縫隙片口底	横合No.19	
20図-2	PL11-14	10114	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径32.8cm、内面-11縫隙片口底	横合No.13	
20図-3	PL11-15	10114			4	青磁	碗	V形	口径38.4cm、内面-11縫隙片口9条	10144 I-E40	
20図-4	PL11-19	10114	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径38.4cm、内面-11縫隙片口底	横合No.12	
20図-5	PL11-16	10114	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径38.4cm、内面-11縫隙片口底	横合No.14	
20図-6	PL11-17	10114	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径38.4cm、内面-11縫隙片口底	10145 No.5埋土-E10	
20図-7	PL11-18	10114	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径40.1cm、内面-11縫隙片口底	横合No.7	
20図-8	PL11-22	10114-19	溝状	底	4	青磁	碗	V形	口径34.0cm、内面-11縫隙片口底	横合No.6	
20図-9	PL11-20	10114			4	青磁	碗	V形	内面-11縫隙片口底	横合No.5	
20図-10	PL11-21	10114	溝状	底	4	青磁	碗	V形	内面-11縫隙片口底	10144 I-E28	
20図-11	PL11-27	10114			4	青磁品	碗	慶良光質(重巻)	口径2.6cm、内径2.0cm、厚さ0.21cm 重量3.5g	10144 I-21	
20図-12	PL11-28	10114			4	青磁品	碗	慶良光質(行書)	口径2.5cm、内径2.0cm、厚さ0.18cm 重量3.0g	10144 I-24	
20図-13	PL11-29				4	青磁品	碗	慶良光質(行書)	口径2.5cm、内径2.0cm、厚さ0.26cm 重量4.4g	表記-2	
20図-14	PL11-30	10114			4	青磁品	碗	井作透質(行書)	口径2.3cm、内径1.8cm、厚さ0.16cm 重量2.0g	14144 I-22	
20図-15	PL11-31	10114			4	青磁品	碗	井作透質	口径2.6cm、内径2.1cm、厚さ0.16cm 重量3.4g	14144 I-23	
20図-16	PL11-32	10114	溝状	底	4	青磁品	碗	井作透質	口径2.3cm、内径2.1cm、厚さ0.16cm 重量2.7g、枚数少な	10144 I-21	
PL11-33	16612				1	石製品	石臼	高さ14.2cm、底径19.0cm、重さ35kg	16612 I-21		
21図-1	PL11-23				4	青磁品	碗	口径3.4cm、底径3.5cm、厚さ2.0cm、重量20.3g	表記-M1		
21図-2	PL11-24	414	碗	底	4	青磁品	碗	口径6.1cm、底径6.0cm、厚さ0.31cm 重量3.2g 木質付着	41463 M-1-M1		
21図-3	PL11-25				4	青磁品	碗	口径6.0cm、底径5.8cm、厚さ0.3cm 重量3.4g	表記-M2		
21図-4	PL11-26	10114			4	青磁品	碗	口径6.0cm、底径5.8cm、厚さ0.3cm 重量3.4g	10144 I-N1		

白磁 (18図-6・7、PL11-5~7)

器種は皿で構成され、D群丸皿が出土している。高台は切高台である。

染付 (18図-5、PL2-2-13)

本調査では出土しなかった。なお、昨年度調査で、端反碗B群が出土しているが、昨年度調査報告書で未報告のため今年度報告書に掲載した。

珠洲 (18図-8~20図-10、PL11-9~22)

器種は擂鉢で構成され、吉岡編年V~VI期に相当するものが出土している(吉岡1994)。口縁部に櫛目波状文を施さないものが少量見られる。

接合関係では、第4調査区と昨年度の頂上部で行なわれた発掘調査から出土したものが接合している。

b. その他 (20図-11~21-3、PL11-23~26-33)

鉄製品は、鉄釘1点、鎌1点、茶釜? 1点出土している。銅製品は、錢が最古錢を熙寧元寶(北宋1068年)、最新錢を永樂通寶(明1408年)として6点出土している。石製品は、茶臼1点が出土している。

表16 花沢館跡 出土遺物集計表

種類	器種	分類	破片数	種類	器種	分類	破片数	種類	器種	分類	破片数
青磁	碗	龍泉窯系D2類	2	鐵製品	釘		1	石製品	茶臼		1
		龍泉窯系E類	5		茶臼		1	石器			2
		龍泉窯系不明	1		鍋		1	自然石			2
		小計	8		鍛		1	不明土器	不明		10
白磁	皿	D群	6		小計		4	不明骨	不明		1
珠洲	擂鉢	V-VI期	169	銅製品	鉗		6	総計			209

小 括

1. 上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）

検出遺構

【縦1】

溝1は、出土遺物から16世紀末～17世紀初頭の遺構と思われるが、同時期の溝は、平成13年度の長谷川義章氏宅調査においても検出されている。長谷川氏宅で検出された溝は、木製品が多数出土し、軸が東西方向から直角に曲がり、海に向かって延びていることから、土地の区画や生活排水・ゴミ等を流す水路としての利用が窺える。溝1は、長谷川氏宅の溝のようなカーブは見られないが、規模などから同様の性格と思われる。

【柱列】

柱列1は、切り合い関係から柱列2より古く、柱列4は同様に柱列5より古い。

また、柱列1は切り合い関係から溝1より新しく、柱列5は洋釘が使用される木製容器を収めた土壙3より新しい。洋釘は、日本に明治10年(1877)頃に輸入し始めるので、柱列5はそれ以降に構築されたものであろう。

柱列4は、軸方向が溝1と同一方向を呈するため、溝1と併行する時期の柱列と思われる。

古い順から柱列4→柱列1・柱列3・柱列2→柱列5とし、16世紀末～近現代までの年代幅を想定した。各柱列の実年代については、柱穴からの出土遺物によっても検討すべきであるが、今回は行うことができなかった、今後の課題としたい。

出土遺物

【繩文土器】

繩文土器は、IV群c類が主体となって出土したが、土器編年で示される前後関係を調査で確認することができなかった。8図-11・12(P.L.4-2)は、一括出土品である。

【統繩文土器】

本調査では、統繩文時代の包含層を初めて上ノ

国市街地遺跡で確認することができた。9図-1・2は同一個体と思われる。

【擦文土器】

壺は、大小2法量存在し、外面の調整は土師器で多く見られるヘラ状工具によるケズリ調整である。内耳鍔は、ワシリ遺跡(口径約27cm)や米沢氏宅(口径約24cm)で見つかったものと比較すると小型の法量(口径約15cm)を呈す。

【陶磁器】

15世紀中頃では、龍泉窯系青磁碗B2・D2類、白磁D群丸皿(平高台)、古瀬戸戸、古段階の灰釉卸目付大皿、15世紀第4四半期～16世紀第2四半期では、瀬戸・美濃灰釉皿、染付碗C群、16世紀第4四半期では、胎土目の唐津や大窓第4段階の瀬戸美濃などを始めとして、それ以後は肥前系陶磁器が一定量出土している。

各時期の陶磁器の出土量を見ると、15世紀第4四半期～16世紀第2四半期のものが他と比較して少ない。この時期は、勝山館跡において最も遺物量が豊富な時期であるが、今回の調査ではほとんど確認することができなかった。

【かわらけ】

II層(近世～近現代)の出土であり、弘前城などで確認される近世のものと思われるが、筆者が近世のかわらけを実見したことがなく、結論を留保したい。

2. 史跡上之国花沢館跡

検出遺構

【縦1】

柱列1は、平面プランやセクションから溝を掘り、杭を打ち込んで構築するタイプのものと想定した。

また、第3調査区においても杭穴を伴う溝3が検出された。溝3では、杭穴が描わないとことから現時点では溝としたが、柱列1が平坦面2の

北側端に位置し、その延長線上に溝3が位置すること、さらに標高約30mとほぼ両遺構とも同じ標高値を示すといったことから、溝3は柵列1の延長部分としての可能性も考えたい。

【空塹】

空塹は、位置・堀底の形態やその規模から昨年検出した空塹（PL 2-10）の延長部分と思われ、人為的な堆積を呈し、堆積土の方向から館内側からの埋め戻しを想定した。当初、空塹館内側の地山部分に空塹に沿うように窓みが確認されたため、空塹埋め戻し時の掘削痕とも考えたが、自然のものとしての可能性もあり、今回結論を出すことができなかった。

【土壘】

土壘は、空塹を掘削した際の掘り上げ土を利用して構築している。土壘西側斜面に、土壘の崩落土が見られる。

【溝】

溝1と溝2とは、斜面直下に構築され、またその位置や軸方向から同一の溝と思われる。

溝7は、覆土にロームや玉砂利などが多く混入し、斜面を縱断するように構築されるので曲輪を往来する通路跡とも想定したが、部分的な調査のため、その詳細は不明である。通路は、大正5年

の測量図には、第3調査区を設定した舌状台地に道路跡を記している（北海道史1918）。現在では舌状台地の先端部は、国道敷設時に削平されており、館に至る通路も変更している。

出土遺物

今年度の調査では、青磁龍泉窯系統B2・D2・E類、白磁丸皿D類（平高台）、珠洲播鉢では、期を主体として、VI期も出土している。

昨年度調査のものを含めると、青磁龍泉窯系統C2類・皿・盤、青磁染付碗B群、瀬戸皿が加わり、これらは15世紀中頃の年代を示す遺物群である。

花沢館跡では、十三塗遺跡（1442年廃絶）や志海苔谷跡（1457年廃絶）からは出土しない染付や青磁龍泉窯系統C2類が確認されるため、15世紀後半、「コシャマインの戦い」の後まで館が機能したことなどが推測される。

さらに、花沢館跡から出土する播鉢がすべて珠洲に対し、勝山館跡ではその大半が越前で構成されるため、花沢館跡は勝山館跡が築かれる1470年代より以前の廃絶が考えられる。

このことは、「新羅之記録」で花沢館跡が陥落しなかったことと符合し、また少なくとも「福山秘府」に記される蠣崎季繁の没年代の1462年頃まで館が機能していたことを窺うことができる。

まとめ

花沢館跡では、建物跡が検出されず、年代幅も短く臨時的な山城（詰城）の様相を呈するため、館主である蠣崎季繁の居館は、上ノ国市街地遺跡に存在する可能性の高いことが想定された。

出土遺物からは、文献資料と考古学の成果が一致することで花沢館跡の下限の年代を裏付けることができた。このことは、2年間の調査で最も大きな成果ではなかったかと思う。

また、第4調査区の出土遺物は、接合関係から頂上部より廃棄されたものと考えられ、逆に頂上部の遺物の集中を際立たせる結果となった。

上ノ国村史には、慶長15年（1610）3月公家の花山院忠長が流罪となり、花沢館にしばらく滞在したとある（松崎1956）。

しかしながら、昨年度からの調査で近世初頭の年代を示す遺構・遺物は確認されないため、花沢館においてそのような事実はなかったと思われる。

天ノ川左岸に位置する上ノ国市街地遺跡は、中

世において過去の住宅建替えの調査も含め、出土陶器が花沢館跡とともに15世紀中頃を上限とするため、十三塗遺跡の安藤氏没落後に渡道した蠣崎季繁、武田信広によって館と同時に形成されたと思われる。

上ノ国市街地遺跡で勝山館併行期の遺物がその前後する時期と比較して少ないことは、花沢館から勝山館という臨時的な山城から恒常的な山城といった変化に城下が呼応したとも想定できるが、当時期の上ノ国市街地遺跡の町割りが不明瞭なため、それをまず明らかにする必要があろう。

最後に、紙幅の関係から十分な検討を行うことができなかつたが、今回調査を行なうにあたり、土地所有者の山本吉春氏、並びに上ノ国八幡宮官司松崎辰彦氏には、多くのご支援ご協力を賜りました。

末尾ではありますが、心より感謝申し上げます。

写 真
図 版

上之国花沢館跡

遺構検出状況・出土遺物



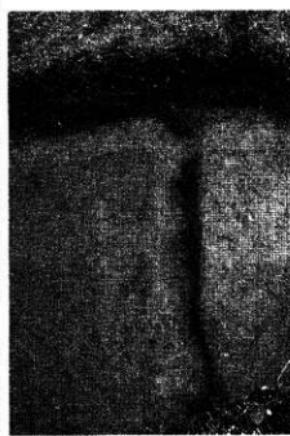
1. 第1調査区 3層 検出 (西から)



3. 第2調査区 セクション (南から)



4. 第3調査区 溝7-1 セクション (東から)



2. 第1調査区 素列1 発掘状況 (東から)



5. 第2調査区 焼土 検出 (南から)



6. 第3調査区 溝3 セクション (西から)



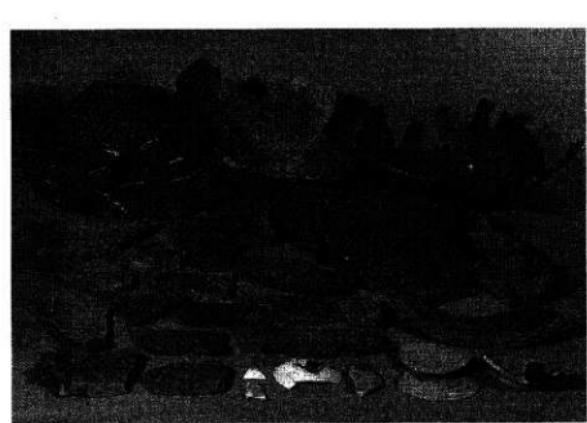
7. 第4調査区 溝状黒色土範囲 検出状況 (北から)



8. 第3調査区 溝4 Ko-d 検出状況 (東から)



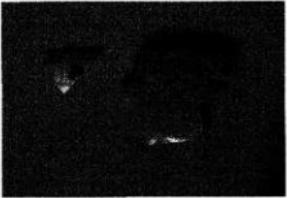
9. 第4調査区 空堀・溝状黒色土範囲 セクション (北から)



11. 出土遺物



12. 出土遺物 (株洲 掘外)



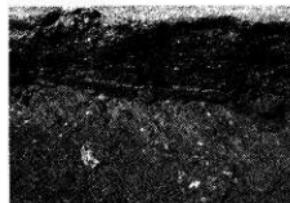
13. '04年度出土遺物 (青磁・朱付)



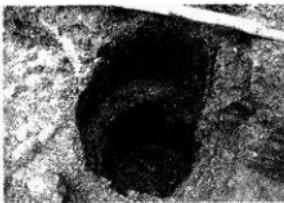
1. 調査前風景 (北東から)



2. I～Ⅲ層 南北ベルトセクション (東から)



3. I～Ⅲ層 東西ベルトセクション (南から)



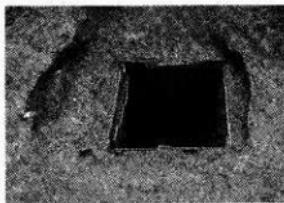
4. 土壌1 (近現代) 槽 出土状況 (南西から)



5. 土壌3 (近現代) (西から)



6. 井戸 (近現代) 検出 (東から)



7. 井戸 (近現代) 検出 (東から)



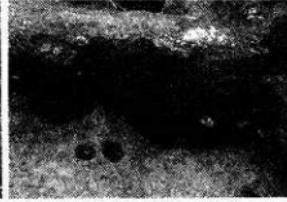
8. Pit1 柱抜き取り穴セクション (西から)



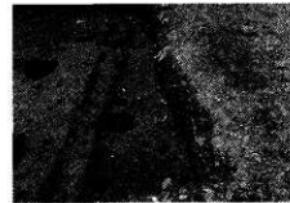
9. I層 遺物出土状況 (西から)



10. II層 遺構検出 (北から)



11. 溝1 セクション (東から)



12. 溝1 完括 (東から)



13. 灰・炭化物範囲 磁器出土状況 (東から)



14. III層 遺物出土状況 (北から)



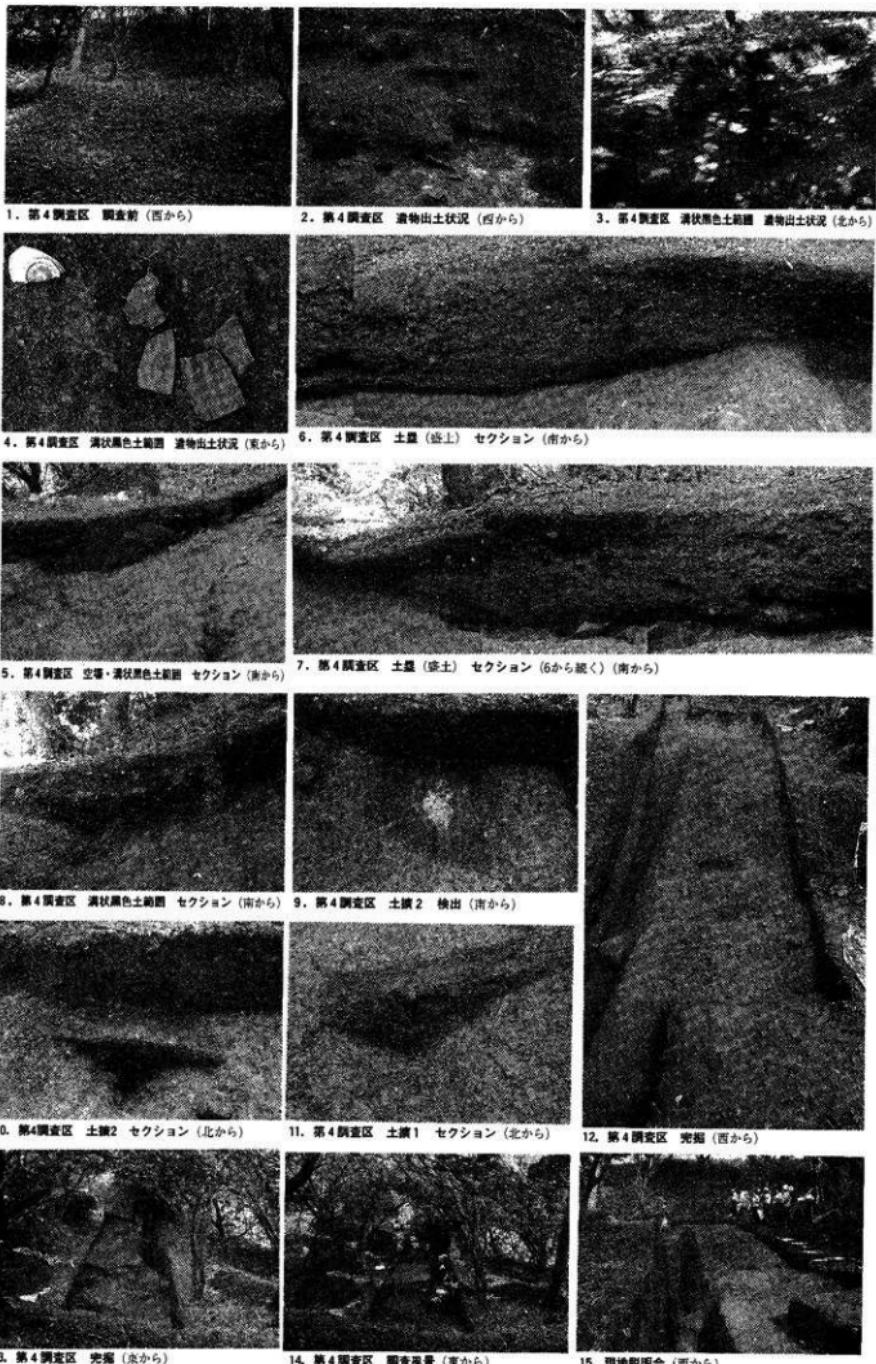
15. IVa層 内耳土鍋出土状況 (南から)



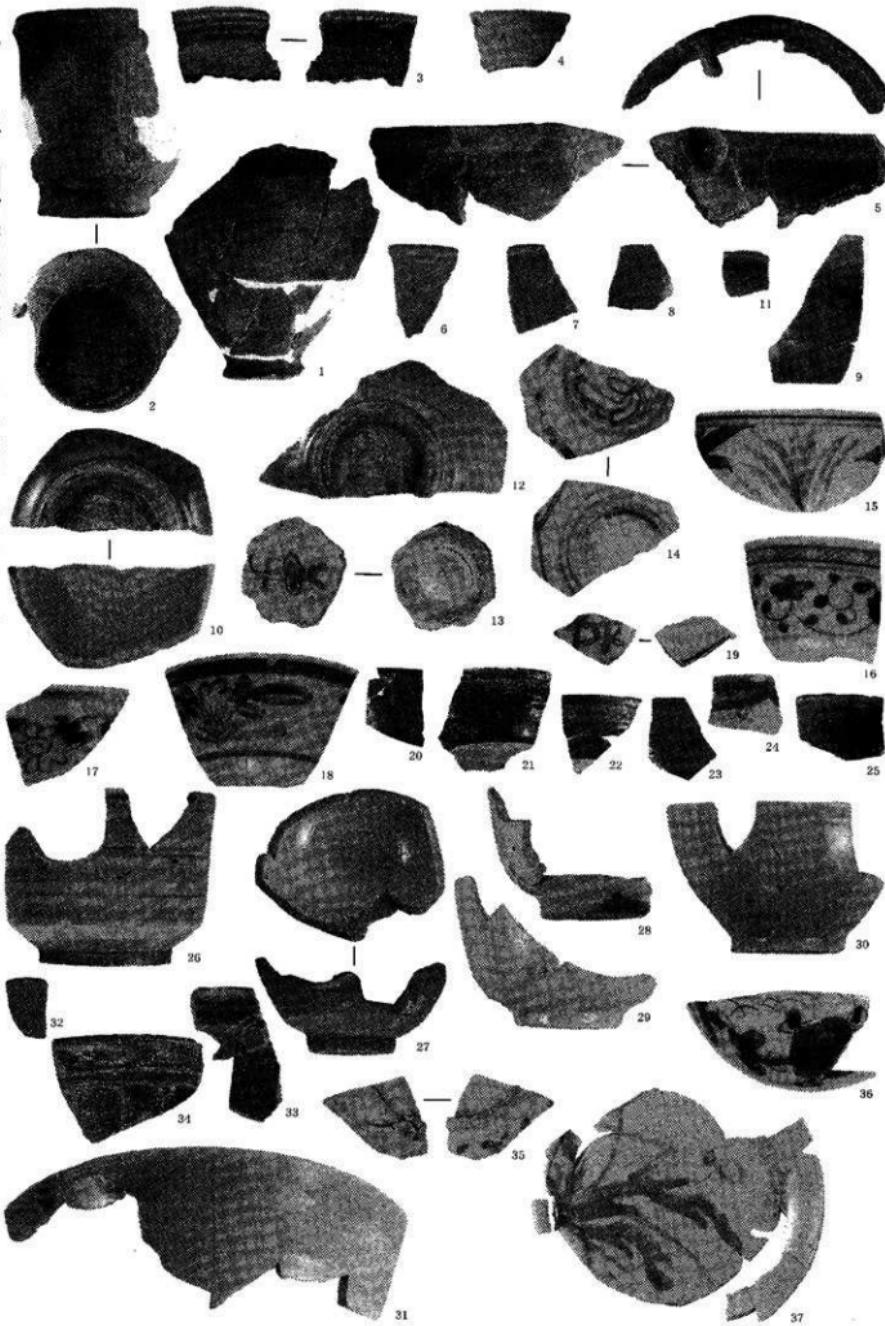
16. IVa層 内耳土鍋出土状況 (南から)



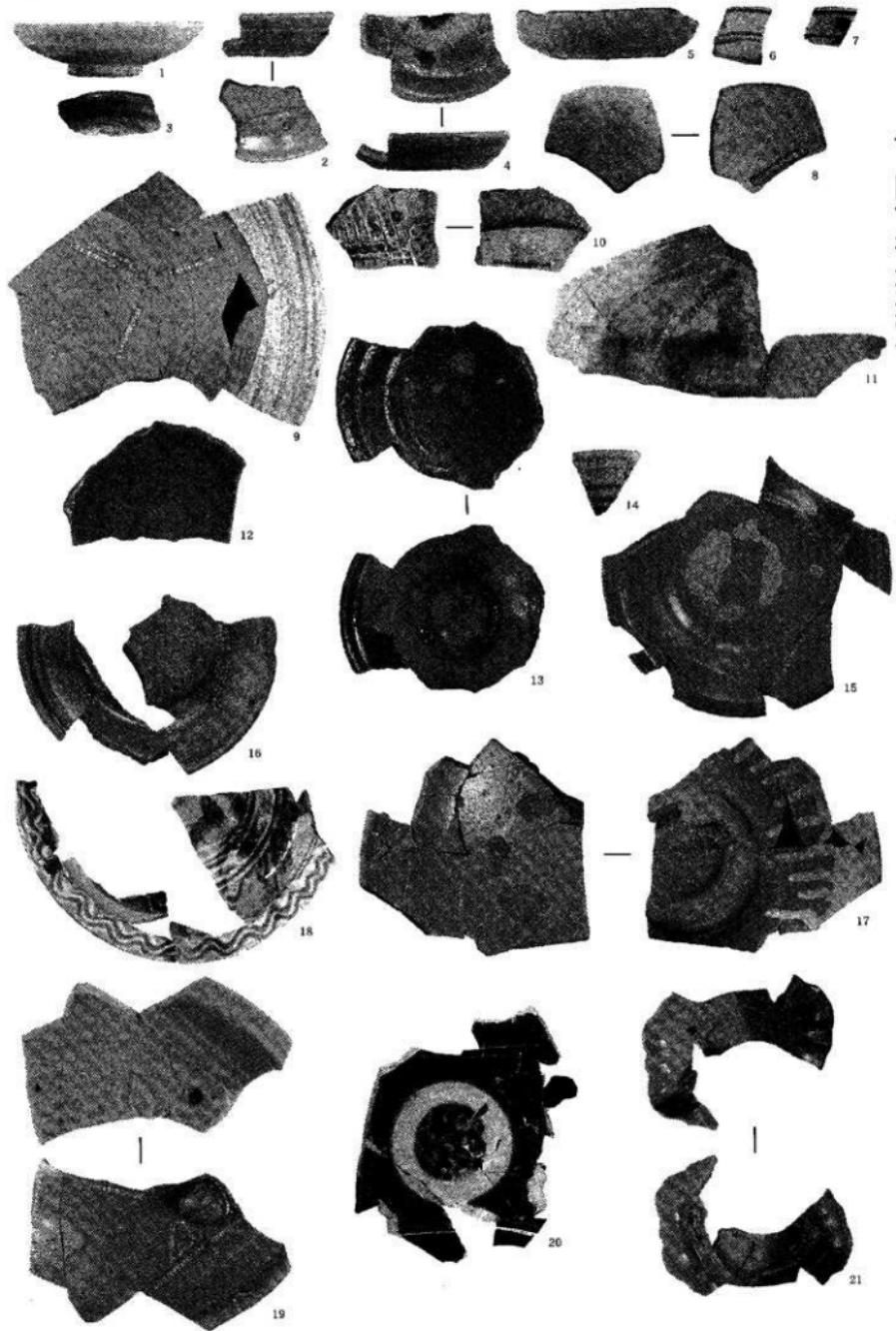
17. IVa層 推文土器一括出土状況 (北東から)

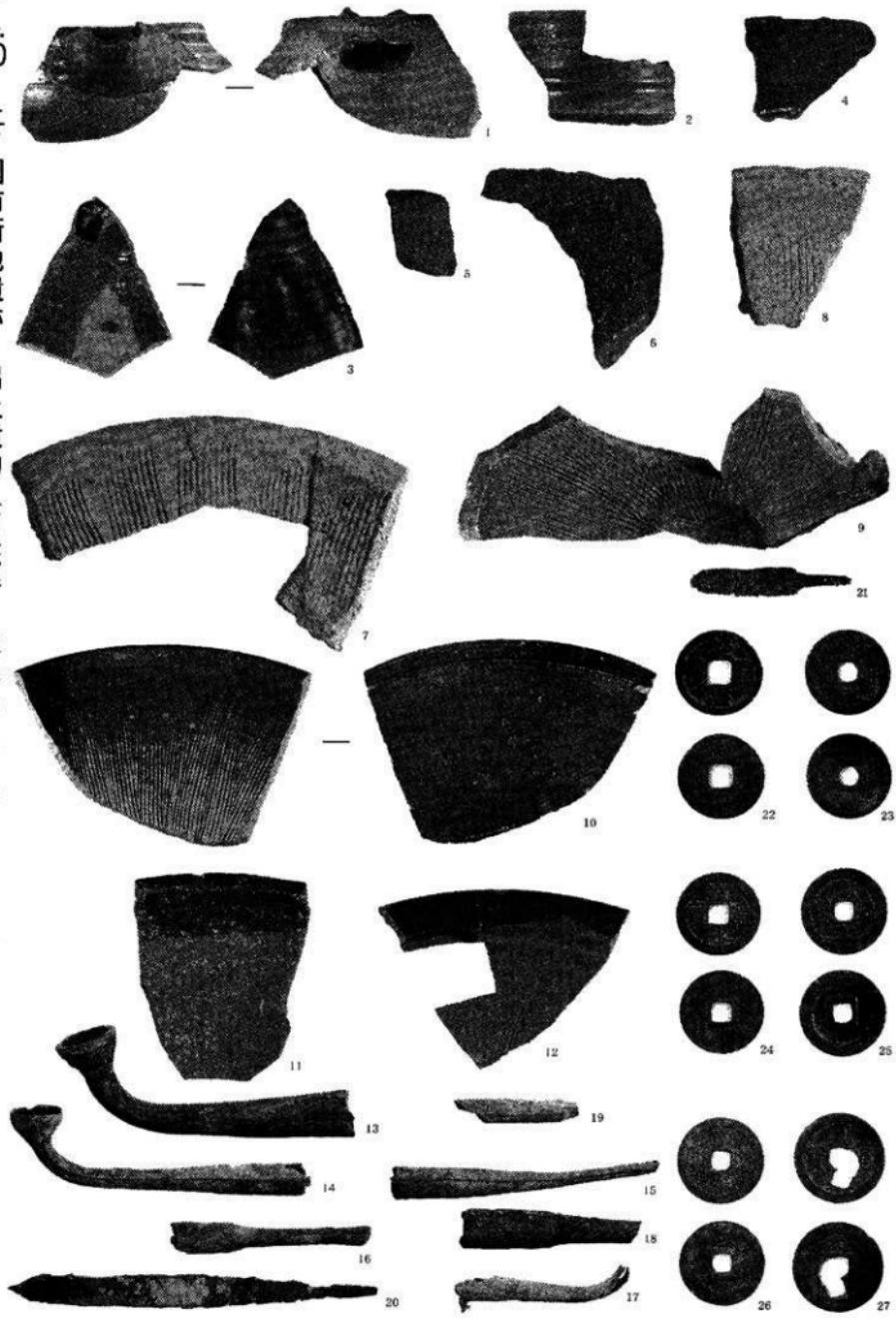






上ノ国市街地遺跡 出土遺物（陶磁器・かわらけ）







報告書抄録

ふりがな	ちようないいせきはっくつちょうさとうじぎょうほううこくしょ ちょうさへん						
書名	町内遺跡発掘調査等事業報告書IX 調査編						
副書名	上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点） 史跡上之国花沢館跡分布調査						
卷次	8						
シリーズ名	町内遺跡発掘調査等事業						
シリーズ番号	9						
編著者名	齊藤邦典 塚田直哉						
編集機関	上ノ国町教育委員会						
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字人留100 TEL0139-55-2230						
発行年月日	2006年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村 遺跡番号					
上ノ国 市街地遺跡 (山本吉春氏 宅地点)	上ノ国町字上ノ国 227-1他	013625 C-02-88			平成17年6月 15日～平成 17年7月15日	85m ²	町内遺跡発 掘調査等事 業
史跡上之国 花沢館跡	上ノ国町字勝山 172-1、173	013625 C-02-70			平成17年7月 25日～平成 17年9月16日	260m ²	町内遺跡発 掘調査等事 業
所取遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
上ノ国 市街地遺跡 (山本吉春氏 宅地点)	遺物包含地	縄文 統縄文	溝 柱穴	土器・石器 縄文土器、統縄 文土器 擦文土器 陶磁器・土器 青磁、白磁、染付、 瀬戸・美濃、珠洲、 越前、備前、志野、 唐津、肥前系陶磁 器他、かわらけ 鉄製品 鎌、釘、刀子、鍋、 ヤス?、銀他 銅製品 煙管、釘、笄、錢他 骨角器、漆器、陶 錘、須恵器 その他			
史跡上之国 花沢館跡	城館	中世	空濠、土塁、櫓列 土塙、溝、柱穴他	陶磁器 青磁、白磁、珠洲 鉄製品 釘、鎌、茶釜? 銅錢、茶臼、石器 不明土器、不明骨			

町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅸ
調査編

上ノ国市街地遺跡（山本吉春氏宅地点）
史跡上之国花沢館跡分布調査

発行 上ノ国町教育委員会
北海道桧山郡上ノ国町字大留100
印刷 平成18年3月28日
発行 平成18年3月31日
印刷所 株第一印刷

